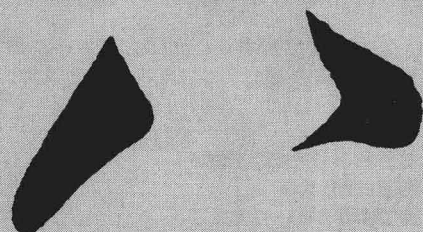


8

スクーター

平凡社
大百科事典

ENCYCLOPÆDIA
HEIBONSHA



大百科事典

8

1985年3月25日 初版発行
1985年印刷

定価は第1巻に表示してあります

編集発行人——下中邦彦

発行所——平凡社

郵便番号 102

東京都千代田区三番町5

振替東京8-29639番

電話[03]265-0451番(代表)

[03]265-0455番(営業)

本文用紙——十條製紙株式会社

見返用紙——日清紡績株式会社

製版・印刷——株式会社 東京印書館

株式会社 ハナマチック・センター

フォト印刷株式会社

クロス——ダイニツク株式会社

表紙箔押——斎藤商会

製本——和田製本工業株式会社

© 株式会社 平凡社 1985 Printed in Japan

②

凡例

見出し語

①—見出し語は、かな見出しを太字のかなで示し、次に漢字または欧文を掲げた。

あいち 愛知[県]

アイルランド Ireland

②—かな見出しは、日本語(日本慣用の字音読みによる漢字を含む)はひらがな、外国語(外来語を含む)はカタカナとした。日本語と外国語の合成語は、日本語の部分はひらがな、外国語の部分はカタカナとした。

アルカリせいしょくひん アルカリ性食品

③—日本語のかな表記はく現代かなづかいで表した。〈おう〉と〈おお〉、〈じ・ず〉と〈ち・づ〉を区別するとともに、〈ち・つ〉が連音により濁音化したものはくち・づを用いた。

おうちょうもの 王朝物

おおさか 大阪[府]

あづまかがみ 吾妻鏡

④—動植物名はカタカナをかな見出しとし、必要に応じて漢字を示し、英名、学名を付記した。

ウシ 牛 domestic cattle: *Bos taurus*

アワ 粟

foxtail millet: *Setaria italica* Beauv.

⑤—元素名、化学物質名、岩石・鉱物名などは、かな見出しはひらがなとし、学術用語により部分的にカタカナ表記とするものは、カタカナ表記の()内に漢字を示した。

りん リン(磷) phosphorus

かこうがん 花コウ(崗)岩 granite

⑥—日本、中国、朝鮮の人名は、原則として姓、名の順とし、生没年は西暦で示した。日本人名は日本年号を()内に付記した。中国人、朝鮮人以外の外国人名は原語つづりで表記し、かな見出しはファミリーネームで示した。

おだのぶなが 織田信長

1534-82(天文3-天正10)

もうたくとう 毛沢東 Máo Zé dōng

1893-1976

ワシントン George Washington

1732-99

⑦—人名の称号は、原則として割愛した。

⑧—中国、朝鮮の人名、地名は日本語読みとし、漢字のほか、中国のものには拼音を、朝鮮の場合はハングル音をマッキューン=ライシャワー方式で表示したものを付記した。なお、原音および原音の転訛で通用しているものは、これをかな見出しとした。

うんなん 雲南[省] Yún nán shěng

はくとうさん 白頭山 Paektu-san

ナンキン 南京 Nankin: Nán jīng

⑨—外国語を出自とする概念語などには外国語を付記し、英語以外については必要に応じて[]内に何国語であるかを示した。

しょうどう 衝動 impulse: impulsion

きか 帰化

naturalization: Einbürgerung [ドイツ]

⑩—欧米語で語形の似通うものは英語で代表させた。地名で複数の国にまたがるもの(山脈、海など)は、見出し語には英語を掲げ、必要に応じて本文中で各国の呼称を示した。

⑪—人名、地名以外の中国の項目にも、拼音を付記した。

かきょ 科挙 Kējǔ

⑫—かな見出しがカタカナの外国の自然地名では、山、山脈、峠、川、湖、島、諸島、群島、列島、岬、峰は[]内に示した。

アンデス[山脈] Cordillera de los Andes

コディアク[島] Kodiak Island

コロンビアこうげん コロンビア高原

Columbia Plateau

配列

項目の配列は次の基準に従った。

①—五十音順に配列し、促音、拗音も音順に数え、清音→濁音→半濁音の順とした。

②—同音の項目は、カタカナ→ひらがな→漢字の順とし、促音、拗音など小字となるものは並字の後に記した。

③—中黒(・)、音引(ー)のあるものは中黒、音引のないものの後においた。

④—同音の漢字項目は、第1字目の字画の少ないものから配列した。また、第1字目が同字画のときは、第2字以降の字画の少ないものの順とした。

⑤—同音同字の項目の配列は地名→人名→一般名詞の順に配列した。ただし、地名、人名に関しては次の基準に従った。

⑥—日本地名は、自然地名→歴史地名→行政地名→その他、の順とした。

⑦—外国地名は、国名→自然地名→地方名→行政地名→その他、の順とし、次に所属国名の五十音順とした。

⑧—人名は、架空人名→実在人名の順。

⑨—日本人名は生年順。

⑩—外国人名は、パーソナルネームの欧文アルファベットの順に配列した。同姓同名の場合は生年順。

本文

①—本文の記述は簡明な表現とし、難解な漢語、敬語の使用はなるべく避けた。

②—かなづかいはく現代かなづかいにより、固有名詞、固有術語、引用文などでは旧かなづかひも用いた。

③—漢字は、〈常用漢字表〉〈人名漢字表〉に掲げられたものは一般にその字体を用い、それ以外は慣用のあるものを除いて正字ないしは通用の字体を用いた。難読の漢字、誤読のおそれのある漢字には振りがなを施した。

④—送りがなはく改定送り仮名の付け方によって付し、活用のある語から転じた名詞および複合名詞では、慣用のあるものは送りがなを付けなかった。また、歴史用語などで特有の表記のあるものはそれに従った。

⑤—直送項目は▶▶▶で送り先を示し、参照送りは文中では各語の語頭の左上に・を付し、文末ではとくに参照要望度の強い語句を抜き出し▶▶▶によって示した。

⑥—大項目などで、いくつかの内容に分けて記述する場合は次のような区分をした。大見出し(【 】でかこむ)、中見出し(【 】でかこむ)、小見出し([]でかこむ)。

⑦—度量衡の単位はメートル法で示したが、尺貫法、ヤード・ポンド法が慣用されているものはそれによった。

⑧—年代は原則として西暦で表記し、日本年号、中国暦その他を示す必要がある場合は()内に示した。日本年号は、改元がまたがる場合、月日に関係なく新元号で示した。なお、日本の南北朝時代の年号は南朝、北朝の順で示した。

符号・記号

①—記述記号

〈 〉 書名、曲名、作品名、論文名などをかこむ。

く 〉 引用文または語句、特定の呼称、語義などをかこむ。

[] 見出し語中の地名の行政単位、自然地名の種類、語の限定などをかこむ。

≡ 2種以上の見出し、新旧両暦、2種以上の参照送り、2種の年号表記、2種以上の振りがなを区切るのに使用。

②—漢字略語

③—国名、地域名については必要に応じて次のような略称を使用した。

亜(アジア)、阿(アフリカ)、米(アメリカ)、

英(イギリス)、伊(イタリア)、印(インド)、

豪(オーストラリア)、澳(オーストリア)、蘭

(オランダ)、加(カナダ)、西(スペイン)、ソ

(ソ連)、中(中国)、独(ドイツ)、土(トルコ)、

仏(フランス)、普(プロイセン)、墨(メキシコ)、

欧(ヨーロッパ)、露(ロシア)

④—国指定の名勝、天然記念物などの略語

名(名勝), 特名(特別名勝), 天(天然記念物), 特天(特別天然記念物), 史(史跡), 特史(特別史跡)

◎図・表

㊦ 挿絵, 地図, グラフ, 写真など

㊧ 年表, 統計表など

外国語のかな表記について

外国語のカタカナ表記の基準は, 下記のとおりである。

①全体として, 現地音を尊重しながらも, 日本語として無理なく発音できるような形に写すことを心がけた。

②エジソン, フルベッキなどのように, すでに慣用形のできているものは, その形を尊重した。

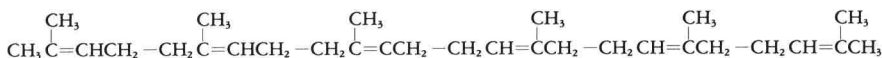
③ヴの文字は用いず, ヴは特記しないかぎりバ行音で表記した。

④各国語別の具体例については, 第1巻巻頭の〈凡例〉を参照されたい。

記号および略符号

a ——— アール
A ——— アンペア
Å ——— オングストローム
A. D. ——— 紀元後
atm ——— 気圧
α_D ——— 比旋光度 (20℃における
ナトリウムD線に対し)
bar ——— バール
B. C. ——— 紀元前
B. P. ——— 現在(1950年)以前
Bq ——— ベクレル
c ——— センチ (=10⁻²)
C ——— クーロン
°C ——— セ(摂)氏温度
cal ——— カロリー
Cal ——— 大カロリー
cc ——— シーシー (=cm³)
cd ——— カンデラ
CGS ——— CGS単位
cm ——— センチメートル
cm² ——— 平方センチメートル
cm³ ——— 立方センチメートル
d ——— デシ (=10⁻¹)
d²⁵ ——— 比重 (15℃における)
d- ——— 右旋性
D- ——— D形異性体
dB ——— デシベル
deg ——— 度(温度)
dg ——— デシグラム
dl ——— デシリットル
dl- ——— ラセミ体
dm ——— デシメートル
E ——— 東経
emu ——— 電磁単位
erg ——— エルグ
esu ——— 静電単位
eV ——— 電子ボルト
F ——— ファラド
°F ——— カ(華)氏温度
g ——— グラム
g ——— 重力加速度
G ——— ギガ (=10⁹)
Gal ——— ガル
Gy ——— グレイ
h ——— 時またはヘクト (=10²)
H ——— ヘンリー
ha ——— ヘクタール
hPa ——— ヘクトパスカル
Hz ——— ヘルツ
J ——— ジュール
k ——— キロ (=10³)
K ——— ケルビン
kcal ——— キロカロリー
kg ——— キログラム
kgf ——— キログラム重
km ——— キロメートル
km² ——— 平方キロメートル
km³ ——— 立方キロメートル
kV ——— キロボルト
kW ——— キロワット
kWh ——— キロワット時
l ——— リットル
l- ——— 左旋性
L- ——— L形異性体

lm ——— ルーメン
lx ——— ルクス
m ——— メートルまたはミリ (=10⁻³)
M ——— メガ (=10⁶)
m- ——— メタ
m² ——— 平方メートル
m³ ——— 立方メートル
mb ——— ミリバール
mg ——— ミリグラム
mGal ——— ミリガル
min ——— 分
MKS ——— MKS単位
ml ——— ミリリットル
mm ——— ミリメートル
mm² ——— 平方ミリメートル
mm³ ——— 立方ミリメートル
mmHg ——— 水銀柱ミリメートル
mol ——— モル
μ ——— マイクロ (=10⁻⁶)
μm ——— マイクロメートル
n ——— ナノ (=10⁻⁹)
N ——— 規定または北緯またはニュートン
nm ——— ナノメートル
ns ——— ナノ秒
o- ——— オルト
p ——— ピコ (=10⁻¹²)
p- ——— パラ
Pa ——— パスカル
pH ——— 水素イオン濃度指数
ppb ——— ビービービー (10億分率)
ppm ——— ビービーエム (100万分率)
rad ——— ラジアン
rpm ——— 毎分回転数
s ——— 秒
S ——— ジーメンスまたは南緯
sr ——— ステラジアン
Sv ——— シーベルト
t ——— トン
T ——— テスラまたはテラ (=10¹²)
V ——— ボルト
W ——— ワットまたは西経
Wb ——— ウェーバー
Wh ——— ワット時
° ——— 度
' ——— 分
" ——— 秒
% ——— パーセント (百分率)
‰ ——— パーミル (千分率)

**スーク** sūq ▶▶市 (いち)**スーク** Josef Suk 1874-1935

チェコの作曲家、バイオリン奏者。プラハ音楽院に学び在学中より作曲を始め、後ドボルジャークの愛弟子となる。1892年チェコ四重奏団の第2バイオリンを受け持ち、西欧などで名声を得る。作曲の領域では師ドボルジャークの影響を強く受け、多数の器楽曲を書く。その作風は、同時代のマナーチェクらと異なり、民族的で文学的内容は、初めのうち見られなかったが、後には、ボルカなどのジャンルで民族的方向をとるようになった。晩年にはロマン派的な和声や多調により、独自の作風となる。交響曲、交響詩、室内楽曲、ピアノ曲などを残している。プラハ音楽院ではマルティヌーらを教え、当時のチェコの音楽界で指導的役割を果たした。

なお孫にあたる同名のJ.スーク(1929-)はバイオリン奏者として名高く、1952年スーク三重奏団を組織、61年にチェコ・フィルハーモニーのソリストとなった。59年以来再三来日している。 庄野 進

すく ▶▶鉄鉄**スクアルチオーネ** Francesco Squarcione 1397?-1468

イタリアの画家。パドバに生まれ、30代半ばまでは仕立屋を営む。画家としての経歴は不詳で、彼の作とされる2点の凡庸な作品が残るのみである。彼は、養子にしたA.マンテーニャ、C.トゥーラ、スキアボーネ Schiavone (1434ころ-1504)、ゾッポ Maro Zoppo (1433-78)ら、いわゆるパドバ派の画家たちの師であった。しかし、彼らとの雇用関係をめぐる係争の記録が残されており、その師弟関係の実態は必ずしも明らかでない。またイタリアとギリシアを旅行して古代美術を収集し、弟子たちの教育に用いたとされるが、確証はなく、近年ではむしろ、その古代研究はパドバの人文主義の伝統に負うものとされる。

鈴木 杜幾子

スクアレン squalene

多くのサメ、とくにフジクジラ、カラスザメ、カスミザメなどの深海性のサメの肝油の不ケン化物などに存在する不飽和炭化水素。1916年辻本満丸によって発見された。スクアレンは動物界から初めて取り出されたイソプレネ系化合物で、その生合成経路の面からもきわめて興味あるものである。構造的には、図の構造式に示すような6個のイソプレネ骨格が分子中央で対称に、かつ各3分子が頭・尾結合をしたものである。

無色かつ無臭で、沸点270-275℃(15mmHg)、凝固点-75℃、比重 $d_4^{15}=0.8578-0.8591$ の油状物質。広い温度範囲で油性があり、かつ生体への吸収性もよく、化粧品、医薬品の基材として用

いられる。また精製スクアレンは高血圧防止用肝油として供される。水素添加したものは粘度特性の優れた耐寒性潤滑油の原料にも用いられる。 内田 安三

スークアン Su Quan 使君

10世紀、中国から独立直後のベトナムに割拠した12人の土侯の総称。ベトナムは前2世紀以来中国の支配下にあったが、938年ゴ・クエン(呉権)が南漢の干涉軍を破って独立した。ゴ・クエンの死後しばらくして土豪が各地に割拠し、分裂状況となった。このうち有力なのが平橋のゴ・スオン・シ(呉昌機)、峯州のキエウ・コン・ハン(矯公罕)、三帯のゲン・コアン(阮寛)、超類のリ・クエ(李奎)、仙遊のゲン・トゥー・ティエブ(阮守捷)、細江のルド・オン(呂唐)、西扶烈のゲン・シエウ(阮超)、回湖のキエウ・トゥアン(矯順)、藤州のファン・バック・ホ(范白虎)、唐林のゴ・ニャット・カイン(呉日慶)、杜洞江のド・カイン・タック(杜景碩)、布海口のチャン・ラム(陳覽)ら12人の土侯で、合わせて十二使君と呼ぶ。しかし、いずれもソンコイ川デルタ内に限られた。968年(または966年)、ディン・ボ・リンがスークアンを倒してデルタを統一し、ディン(丁)朝を建設した。 桜井 由躬雄

すくい 救い salvation

〈救済〉ともいう。一般に、超自然的な存在や力もしくは自己の精進・努力によって、生理的な病や心理的な苦痛から脱却すること。その結果、精神的な至福感や神秘的な法悦が訪れることがある。これを整理すると、救いの具体的な内容は、生理的・心理的・精神的・神秘的といったさまざまな位相に重層的にかかわっているということができる。また救いを求める者の態度としては、絶対者や超自然的な力に祈願し奉仕する型と、自己自身の力に頼る型の2種に分けることができる。前者を〈他力的救済〉とし、後者を〈自力的救済〉と考えることもできる。

一般にキリスト教は絶対者(神)に祈願、奉仕して救いを求める宗教とされるのに対して、仏教は自己自身が絶対者(仏)になることを通して救いを得る宗教であるとされる。前者が神による救いを強調するのに対して、後者は仏になることで得られる救いを重視するといってもいい。そしてこれまで、神によるキリスト教的な救いは〈救済〉——被造物の至福——と呼ばれ、それに対して「仏になる」仏教的な救いは〈解脱〉——みずから覚醒する者の境界——と呼ばれるのが普通であった。このように〈救済〉と〈解脱〉という対照的な概念は、さまざまな宗教経験を典型的に分析するうえで有効とされてきたが、もちろんキリスト教の世界に〈解脱〉的契機を内包する宗教経験が存在しなかったわけではなく、同様に仏教世界

においても〈救済〉的な立場をとる宗教経験がなかったわけでもない。たとえばキリスト教世界における〈解脱〉的な宗教経験に属するものとして「ゲノース主義をあげることができ、それに対して仏教世界に属する〈救済〉的な宗教経験として「浄土教信仰の系譜を考えることができる。

仏教文化圏に発達した浄土教信仰では、阿弥陀仏の本願力(他力)によって無力な被造物(衆生)を救済するという教義が説かれ、それがしだいに大きな影響を及ぼすことになった。すなわち、中国浄土教の刺激と影響のもとに形成された日本の源信、法然、親鸞などの救済論がそれであり、いわば、解説宗教圏に発達した独自の救済宗教といえることができる。ところが、このような潮流に対して、とりわけ解脱宗教的特徴を強く示したのが、たとえば空海と道元によって代表される宗教経験であった。空海によって説かれた〈即身成仏〉(その身そのままで仏になること)と、道元によって主張された〈身心脱落〉(心とからだを透明な融合体——仏——になること)の境地こそは、〈解脱〉の特質を端的に示す身心統御の状態であるといえよう。

以上のことからわかるように、平安時代の日本仏教界の趨勢を、教団史的観点からではなく宗教経験の類型的把握という観点から見直してみると、密教における解脱型(空海)に対して、浄土教における救済型(源信)を対照させることができるであろう。その後の日本文化の展開に与えた衝撃の強さからいっても、また民間信仰のレベルにまで深く浸透したことからいっても、上の両者はほぼ拮抗する作用を及ぼしたといっているのである。もっとも、この両者の信仰形態はやがて接触と融合の傾向を示し、浄土教思想の密教化もしくは密教と西方往生思想との習合、といった形を通して新たな展開をみせることになる。解説型宗教経験と救済型宗教経験が、たがいに対立するものとしてではなく、むしろ即融するものとして受容されていくことになったのである。そのような現象の典型的な事例として、たとえば12世紀の密教僧である覚鑿の宗教経験をあげることができる。

山折 哲雄

[ユダヤ・キリスト教的伝統における「救い」]

次にユダヤ・キリスト教についていうと、古代イスラエルの共同体が全体と個の相即という集合人格 corporate personality をなしていることに応じて、共同体の救いと個人の救いとは分離しないという特徴がある。もちろん古い時代には共同体が前面に出て、のちになって個人が前面

に出るといえるが、教団と無関係な純粹な個人というものは考えられていない。そして救いの状態に先立ち、できごととしての性格があきやかであることも大きな特徴である。それはまず第1に抑圧からの解放、戦争での勝利であり、これらは神が歴史に関与して起こったこととして、しばしば奇跡とみなされた。出エジプトのときの紅海の奇跡(《出エジプト記》15)は、神が創造にさいし原初の海を治めたことに比せられている。またカナンに入ってから原住民やペリシテ人との戦いは、神自身が先頭に立って始め、終わらせるものであった。これらのことはイスラエルではつねに歴史の原型として想起される。のちに預言者は終末の救いを第2の出エジプトとし、終末時の王たるメシアを昔の戦争指導者に擬した。エゼキエルや第2イザヤのようなバビロン捕囚期の預言者は、捕囚からの解放の希望とならんで個々人の罪の赦しを語った。さらにのちには、救いが異邦人にまでおよぶと告げられたが、これは《ヨナ書》や《ヨブ記》に見られるように、古いタイプのイスラエル人には理解できないという大きな皮肉を含んでいた。旧約聖書はここで初めて《悔い改め》を述べているが、それは神からのできごとに応ずる人間の側のものといえる。《ダニエル書》は旧約聖書中唯一の黙示文学で、アンティオコス4世の迫害下にある小集団のものであり、この異教の暴君への憎悪を隠さないが、しかし異教の王すら“悔い改める”ことができるとして《信仰のみ》による救いの道を開いた。

福音書がイエスの奇跡を多く記録しているのは、出エジプトのさいの神の関与と同様である。しかしイエスは救いのできごとを示しただけでなく、《神の国》での生活と倫理をも示して、救いの状態が何であるかも垣間見せた。イエスの救いは十字架と復活にきわまるが、そこでは死の克服と贖罪がとが一つになっている。パウロとヨハネは、グノーシス主義や神秘宗教に対抗して十字架と復活の統一を守り、希望によって迫害と苦難に対処する道を示した。その後の教会では救いの段階が立てられた。東方正教会はそれを聖職者の位階でもって表現し、ローマ教会は悔い改めの業を制度的につくった。しかし救いの根拠が神の「予定にあることも強調されている。ルターは教会の中に固定された制度を破って《信仰のみ》による救いの道を示したが、近代のプロテスタント教会では《義認》と《聖化》の関係が大きな問題であった。ピューリタニズムと敬虔主義においては、《聖化》とは神の見えざる予定と選びを見る仕方で行われるもので、これによって《神の国》の理念を社会的・倫理的に実現しようとした。このような楽天的倫理主義は第1次大戦後に強調された「終末論によって拒否され、義認と聖化につづく栄

化)はもっぱら神の業であること、それによって初めて人類と宇宙の救いが成ることがいわれた。この究極の救いがたんなる自然の救いではなく、《心の平静 ataraxia》を求めるストア学派の倫理とも一致せず(これはヨーロッパ人の中に深く浸透している)、むしろ《最後の審判》を通じて第2の創造として実現するというのがユダヤ・キリスト教における特徴である。

泉 治典

すくいこや 救小屋

近世に飢饉、火災、風水害などの災害時、貧窮の罹災者を収容する目的で建てられた仮小屋。また、災害に際して罹災者が集中的に出た都市社会では、罹災窮民の飢えを補うため、施行粥などの炊出し小屋もたびたび設置され、近世初頭にはこれも御救小屋と称された。しかし、貧窮者の市街浮浪を抑止するため、その全生活を管理する御救小屋と、飯米の一時的施与のみを目的とする炊出し小屋とはその社会的機能を異にするため、後年ははっきり分化した。江戸では、町会所(1792(寛政4)設立)によって、御救小屋がたびたび設けられた。その多くは“江戸の花”とされる火事の類焼窮民を収容するものであった。御救小屋は、公の救済がなされていることを示すシンボリックな存在であり、人々は御仁恵御救小屋と称した。しかし、小屋入りは町人別に限られ、一日も早く再び店持となって町人社会へ復帰するための元手銭稼ぎが強制されるなど、厳しいものであった。 北原 糸子

すくいせき 須玖遺跡

福岡県春日市岡本町を中心にひろがる弥生時代遺跡群。牛頸山から福岡平野に突出した低丘陵地帯には多くの弥生遺跡が知られ、この中でとくに有名なのが丘陵の北端にある須玖遺跡である。遺跡の三方には広い平地が望まれ、丘陵上には墓地群を中心とした遺跡が発見されている。1899年に巨石の下から甕棺墓が発見され、前漢鏡約30面、ガラス璧、勾玉、銅剣、銅矛、銅戈、銅矢など多数の副葬品が出土して注目されるようになった。1929年には京都大学が発掘調査し、甕棺内から細形銅剣を発見したが、この報告書で弥生中期の土器に須玖式という型式名がつけられた。62年の福岡県教育委員会の調査では、銅剣、銅戈、銅釧、鉄刀、ガラス勾玉などが出土した。このほか住宅地から銅剣、銅戈、鉄戈、鉄剣、ガラス製品などと青銅器の青型多数が採集されていることから、青銅器の生産地であったこともわかる。

柳田 康雄

すくいまい 救米

江戸時代の困窮民に対する救恤策の一つ。多くは飢饉、火災、水害などの災害時、罹災窮民のいっそうの困窮化を防ぐため、幕府、領主などによって与えられる救助米を指し、人々これを敬して御救米と称した。これに対して、民間で行われる救済の救助米は合力米、施行米と称される場合が多い。なお、窮民層の固定化現象が現れる江戸中期以降、災害時に限らず日常時の救済も企てられ、社

会的底辺層に御救米が与えられた。1792年(寛政4)設立の江戸町会所による窮民救済は、日常時の窮民のほか、災害時の救済として、火災などの類焼者に限定されるものと、飢饉など江戸町人別の窮民全体を対象とするものがあった。後者の場合は、江戸町人別のおよそ60%が窮民として御救米を受けた。御救米支給基準は、天保期(1830-44)以降、男1日米5合で、60歳以上、15歳以下および女は1日米3合、10日間支給にほぼ固定化した。 北原 糸子

すくいん 宿院

僧侶が出張したときに宿泊する寺坊、あるいは寺院に参詣した人が宿泊する寺坊をいう。《くしゅくいん》ともよむ。《蜻蛉日記》には《すくいんのいとむつかしげなるにとどまりぬ》とある。《太平記》には《宿院の後を廻て如法経塚へ押寄、八百人の兵共、同音に時をどっと作る》とみえている。また、神社の祭礼のとき、神輿を本宮から渡御して、かりにとどまる場所、すなわち御旅所なども宿院といわれていたかと思われる。和泉国に宿院という地名があるが(現、大阪府堺市宿院町)《堺鑑》によると《宿院 此地は住吉明神毎年六月晦日の御祓、御旅所也》とある。この地は旧堺南荘にあり、南宗寺の北に位置し、開口神社の南に接するところである。

福田 榮次郎

スクオッター squatter

元来はオーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ植民地の官有地への不法入植者を指す。貧しい元流刑囚などが、盗んだ家畜をこの不法占拠地内で飼育した。しかし1829年に同植民地内に19の郡が設定され、これらの土地以外への入植が禁じられると、富裕な牧畜業者も郡内の土地だけでは狭すぎるために、郡の境界を越えて官有地を不法占拠した。35年には植民地議会議員のほぼ全員がスクオッターとなってしまう。スクオッターの呼称は40年ころから転じて植民地の上流階級を指すようになった。36年に19郡以外の土地の占拠が年10ポンドの名義料で合法化され、47年に14年間の賃借りと土地購入権が認められると、スクオッターは粗末だった住居を豪邸に建てかえ、永住の決意を示した。

歴代の植民地政府は小農層育成に力を入れ、種々の土地政策(1850-60年代にセレクション selection と呼ばれる小区画農地を1エーカーわずか1ポンドで払い下げるなど)でスクオッターの勢力削減を図ろうとした。しかしスクオッターはダミーを使って水源のあるセレクションを押さえるなどして対抗し、セレクター selector と呼ばれた小農層と激しく対立した。困窮したセレクター層からのブッシュレンジャー bushranger(追いはき)の大量発生は、この対立の副産物である。

20世紀前半になると、農産物の国際市場を牛耳るベスティ社などの国際食肉資本がスクオッターにとって代わり、大きく彼らの力をそいだ。態勢を立て直すため、スクオッターたちは1910年代から政治意識を強め、小農層もとりにこんだ農民

政党，地方党を結成し，30年代からは保守の自由党と連携して，労働党と対抗してきた。なお今日では，スクオッターをパストラリスト *pastralist* と呼ぶことが多い。

越智 道雄

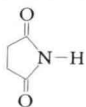
スグキナ 酢(酸)茎菜

Brassica campestris L. var. *neosugiki*

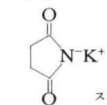
アブラナ科の二年草。漬物にする独特の酸味があるところから，スイゲキナともいい，また地名からカモナ(賀茂菜)ともいわれる。葉には毛がなく，へら形で，葉縁の欠刻程度は多様である。根は倒円錐状に肥大する。京都の特産で京都付近での栽培が多いが，最近では丹波地方でも作られるようになった。来歴は明らかではないが，江戸時代の文献に記載のあるところから，300年前後の栽培歴のあることが認められている。種としてはカブ・アブラナ類のもので，古い原種は絶滅し，現在栽培されているものは明治後期に，原種系と聖護院カブおよびナタネを交雑したものに由来している。秋に栽培され，根も葉も漬物用にすが，乳酸発酵をさせた独特の味が京都特産のくすぐきとして珍重される。

平岡 達也

スグシイミド succinimide

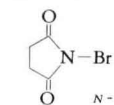


コハク酸イミドともいう。コハク酸のジアンモニウム塩を乾留するか，コハク酸をアンモニア気流中で加熱すると得られる。融点127℃，沸点288℃の無色結晶。両側のカルボニル基の効果により，イミド基=NHの水素はプロトンとして脱離しやすく弱酸性を呈する。また，N-金属塩をつくりやすい。



スグシイミドカリウム

次亜臭素酸の作用で，イミド水素が臭素に置き換わったN-ブロモスグシイミド(NBS)がよく知られている。この化合物は有機化合物のブロム化や脱水素などによく用いられる。



N-ブロモスグシイミド(NBS)

井畑 敏一

スクーター

英語でスクーター *scooter* といった場合，本来は片足を台の上に乗せ，もう一方の足で地面をけて走る2輪の遊戯具のことであるが，現在ではエンジンによって駆動する二輪車，すなわちモータースクーター *motor scooter* を指すのがふつうである。明確な定義はないが，日本では1953年に日本自動車工業会が中心となつてまとめたものによると，「原動機を座席の下に設け，前方に足踏台のある，車輪が22インチ以下の二輪自動車」とされているが，オートバイと分類上の境界

は明確ではなく，両者の中間の形態で判然としないモデルもある。ガソリンタンクがシート下や後部に設置されているため乗り降りが容易で，車体はカバーされているため着衣が汚れることも少ない。運転操作は，多く遠心式の自動クラッチやVベルトを用いた自動変速機が採用され，いたって簡単である。その起源について定説はないが，1935年アメリカ軍の落下傘部隊に折畳式のものが用いられたのが最初とされる。日本では，第2次世界大戦終了後の45年，それまでの軍用機メーカーが製造を始めてから普及，オートバイに押されて69年には製造は中止されたが，最近，簡便な交通手段として需要が高まり，再び生産されるようになった。

中谷 弘能

すくなびこなのみこと 少彦名命

スクナビコナカミ，スクナミカミとも呼ばれ，《古事記》では少名毘古那神と記す。記紀の神話，《風土記》《万葉集》などにしばしば登場する神で，多くの場合大己貴^{オホニギハヤヒ}神(「大国主神の前身ないし別名」と祖をなして語られ，その体軀がきわめて短小でかつわんぱく者という特性を示している。名義はオオナムチの「大鈿」の対称「少鈿」にもとづくもので，この名からさまざまな小人神譚が生まれていったのであろう。《古事記》によれば，大国主神が出雲の御大之御前^{ミホノミコ}にいたとき，波のかなたより天之羅摩船^{アモリフネ}に乗り，蛾の皮を衣服として漂着した神があった。名を問えども答えず，まただれもその素姓を知らなかったが，ヒキガエルと「久延毘古^{ヒキガエル}」(山田の案山子^{ヤマノシロ})によって，神産巢日^{ニギハヤヒ}神(「神皇産靈尊」)の子スクナビコナであることが知れた。カムスミヒは，わが子のうちで「手候^{テコト}より漏^{モロ}きし子ぞ」(指のあいだから落ちた子だ)といい，オオナムチと兄弟になってその国を作り固めよと命ずる。よって2神協力し「葦原中国^{アサヒノクニ}」の国作りを行うが，のちにスクナビコナは「常世国^{トコヨシ}」へ渡っていったという。《日本書紀》にも同様の話があり，なお，この神をオオナムチが掌中でもてあそんだところ飛び上がってその頬を噛んだ，あるいは粟^{アワ}茎^{カサ}によじのぼりはじかれて常世国へ赴いた，のような悪童の小人譚の一部を伝えている。さらに播磨，出雲，伯耆の《風土記》には，稲種や粟をたらす穀霊としてあらわれ，またオオナムチとともに，「大汝^{オホニギハヤヒ}」，少御神^{ウラミカミ}の作らしし妹背の山は見らくしよしと」(《万葉集》巻七)のような多くの山や丘の造物主，命名神として伝えられている。記紀以外の文献，伝承にこの2神ほど多くあらわれる神はほかにない。つまり彼らは在地世界で親しく語られた神で，その場合現世的な力や權威を代表するオオナムチに対し，他界よりきたってそれに刺激と活力をあたえる霊的存在として組み合わされたのがスクナビコナであろう。常世神，穀霊，悪童の小人神さらに酒の神(《古事記》仲哀天皇条の歌謡)等々の属性は，上記のことを裏書きしていよう。記紀神話はこうし

た在地の神をとりこみ「国作り」の役をふりあてたわけだが，スクナビコナの場合，ヒキガエルやら田の案山子の脇役によってなお土着の話柄がとどめられている。その体軀短小ながら異常な能力を発揮するという説話的人物としての型は，のちの伝承の世界に多くの類型を生み出していった。スクナビコナは，かぐや姫，一寸法師，瓜子姫，桃太郎等々のはるかな先蹤^{サキヅネ}である。なおオオナムチ，スクナビコナは医療，禁厭^{イミダシ}の法を定めたといわれる(《日本書紀》神代卷)だけに，温泉の開発神とする伝えが各地に多くみられ(伊予国，伊豆国の《風土記》逸文など)，延喜典薬式に用いられている薬草石斛^{セキコク}はスクナビコノクスネ(少名彦の薬根)と呼ばれた(《和名抄》《本草和名》)。近世以降，大阪の葉問屋街，道修町^{ミチシロ}では薬種の守護神として少彦名神社をまつり，毎年11月には全店休業しての大祭が今日でも行われている。また薬師信仰の普及のなかで，スクナビコナは「薬師如来」と習合されてゆくが，857年(天安1)2神をまつる常陸国^{トコノ}大洗磯前^{オホシロ}神社，酒列^{サカ}磯前神社(ともに式内社)が，官命により「薬師菩薩名神」と加号された(《文徳実録》)のはその早いあらわれといえる。

阪下 圭八

すくね 宿禰

古代日本における称号の一つ。後に「姓^{セイ}」になる。宿禰は，古く足尼とつくり，もっとも古い用例は，埼玉県行田市稲荷山古墳出土の鉄剣銘に「多加利足尼」とみえる。宿禰(足尼)は，少兄(スクナエ)の約で，高句麗の官名の小兄に由来するという説もある。古い時代の称号である宿禰は，5世紀半ば以前に，主として畿内地方の豪族が用いていたといわれているが，姓となったのは684年(天武13)で，八色^{ヤシロ}の姓の一つ。《日本書紀》天武13年10月条に「更諸氏の族姓を改めて，八色の姓を作りて，天下の万姓を混す。……三つに曰はく，宿禰」と第3位にみえ，その年の12月に大伴連^{オホトモノリ}・佐伯連^{サキベリ}など50氏が宿禰の姓を賜った。宿禰の姓は，主として連姓の氏族に賜り，天神・天孫の後裔と称する有力な氏族が多い。

佐伯 有清

スクース scoop▶▶特ダネ

スクマモク スクマ族 Sukuma

東アフリカのタンザニア北部，ビクトリア湖の南に広がるスクマ・ランドと称される肥沃な土地に居住するバントゥー系の農耕民。人口は約150万(1972)。トウモロコシ，モロコシ，ミレット，キャッサバなどを自給作物として栽培するほか，商品作物としてワタの栽培にも従事している。牛などの家畜も飼育するが，とくに牛は花嫁代償(婚資)にも用いられ，社会の中で重要な価値をもっている。また，今日では食肉用として販売されている。スクマ族の口頭伝承によれば，先祖はタンザニア中央部に住むニャムウェジ族から分かれて，この地に北上してきたと伝えられる。伝統的には，39もの首長国

chiefdomに分かれていたが、各首長はかつて北から侵入した牧畜民・アンコーレ族のうちのバヒマ(ヒマ)族の子孫であるとの系譜をもっている。首長は祖先を崇拜する儀礼の中心でもあり、政治的・宗教的権威を担っている。また呪術師による治療儀礼も行われている。キリスト教の布教もある程度進んでいる。 赤坂 賢

すくも 宿毛[市]

高知県西端、愛媛県境にある市。1954年市制。人口2万6080(1980)。市域の83%が山林で、ほぼ中央を松田川が南流して宿毛湾に注ぐ。農業は米のほかミカンを生産する程度で振るわず、県境の山間部では林業が盛んである。宿毛湾口に浮かぶ・沖ノ島、・鶴来?島周辺はイワシ、ムロアジなどの好漁場で、古くから土佐・伊予両国で漁場をめぐる争いをくり返してきたが、沿岸漁業が不振となり、代わって湾内での真珠母貝やハマチの養殖が盛んになった。松田川下流に位置する宿毛の市街地は、近世には土佐藩家老安東氏の居館を中心とした町であった。失脚した・野中兼山の一族は宿毛に40年間幽閉され、墓は安東氏の菩提寺東福寺の背後の西山墓地にある。市街地北西の丘陵には縄文時代の人骨も出土した宿毛貝塚(史)があり、東部の平田にはかつて曾我山古墳があり、近くに式内社の高知坐立神社がある。中山の延光寺は俗に寺山と呼ばれ、四国八十八ヶ所の第39番、土佐路最後の札所。延喜11年(911)の銘のある銅鐘(重要文化財)を蔵する。また、浜田の泊屋はかつての若衆宿で、国の重要有形民俗文化財。 正木 久仁

すくようどう 宿曜道 xiù yào dào

密教の經典《宿曜經》(唐の不空訳)にもとづく星占い。・二十八宿、十二宮、七曜、九曜など天体の運行を考え、生誕の日により、人間一生の運命を卜知し、または日時、方角の吉凶を占察する術。仏教經典の《文殊師利菩薩?及諸仙所説吉凶時善惡宿曜經》(略して宿曜經)に説くところと、中国の道教の説が混じったものである。宿曜經は唐の不空によって、759年中国で訳出され、これが806年(大同1)に空海、847年(承和14)に円仁、858年(天安2)に円珍によって日本に伝えられた。本来この経は、密教の修法にあたって、その日時を選定するために用いられたものであるが、しだいに通俗化して、一般の吉凶禍福を占う場合にも用いられ、《百練(御抄)》によると、1164年(長寛2)5月15日の月食にあたって暦道・宿曜道相論のことがある。《源氏物語》桐壺にも、源氏の運勢を「宿曜のかしこき道の人」(宿曜師)に見てもらったという記述があり、《吾妻鏡》によれば1263年(弘長3)11月16日、宗尊親王御息所?の着帯に、僧職、医師、陰陽師とともに宿曜師大夫法眼晴尊が参仕していることが見られる。しかし後世になると・陰陽道に混入してしまった。

▶▶占星術 三浦 国雄・勝野 隆信

スクヨタカ 木莧夜鷹

owlet-frogmouth: owlet-nightjar

ヨタカ目ズクヨタカ科Aegothelidaeの鳥の総称。この科は1属7〜8種に分類される。全長19〜32cm。一見?がマガグチヨタカに似た鳥だが、大きさはヨタカに近い。他のヨタカ目の鳥と同様にくちばしは小さく扁平で、先がかき状に曲がり、口は大きく、口ひげはよく発達している。これは昆虫や小動物を捕食するための適応と考えられ、口ひげは触角の働きをする。また夜行性で、昼間は樹洞に潜み、夕方から活動する。羽色は灰色や赤褐色で、さまざまな細かい模様があり、止まっているときは見つけにくい。

オーストラリアとニューギニアに分布し、ニューカレドニア島とモルッカ諸島にも1種ずつ生息している。森林やよく茂った灌木林にすみ、単独かついで生活している。留鳥で、渡りはしない。食物はほとんど昆虫類である。飛んでいる虫をとらえることもあるが、大部分は樹上や地上で捕食する。したがって、この点では飛びながら餌をとるヨタカより、おもに地上の獲物をねらうマガグチヨタカに近い。飛び方は音を立てず、チョウのようにひらひら飛ぶといわれる。また、木に止まるときには、枝に直立した姿勢で止まり、フクロウ類を思わせることからズクヨタカの名がある。繁殖は樹洞の中で行い、じかにまたは若干の草や羽毛を敷いただけで、1腹3〜5個の白色の卵を産む。ときには土手の穴に営巣することもある。しかし、繁殖生態その他の習性はまだ十分にわかっていない。

森岡 弘之

スクラッパー scrubber

気体中に浮遊する固体または液体の微粒子や気体中に含有されている気体状の不要成分または有害成分を液中に捕捉?する装置。通常、洗浄液には水が用いられるが、水以外の液体または水に界面活性剤などを添加した液も用いられる。固体または液体の微粒子を洗浄捕捉する場合、装置は一種の集塵装置で、洗浄集塵装置とよばれる。微粒子は液滴または液膜により捕捉される。高圧水を噴射するジェット・スクラッパー、サイクロン内部に多数の噴霧ノズルを設けたサイクロン・スクラッパー、棚段塔形式のビーボディ・スクラッパー、回転羽根の中心に含塵気体と液体とを導くタイゼン・ワッシャー、サイクロン内部にベンチュリ管を組み込んだサイクロン・スクラッパーなど各種の型式のものがあり、ほかに、噴霧塔(スプレー塔)、充てん塔も使われる。これらの微粒子に対する捕集性能は型式によって異なるが、一般に乾式の集塵装置よりも高性能である。気体中の成分を液体中に溶解除去する場合には、スクラッパーは吸収装置であり、液分散型吸収装置とガス分散型吸収装置とがある。

佐田 栄三

スクラッス・アンド・ビルド

もともとは石炭産業の合理化(1955年以降)に際していわれた言葉で、能率の悪い

設備(機械や建屋)を廃棄し(スクラップ scrap)、これを高能率の設備に置き換える(ビルド build)こと。個々の企業で起こりうるが、一般に、業界全体の規模で統一的な意識のもとに、旧設備の廃棄と新鋭設備の導入が行われる場合に、この言葉が使われる。たとえば、日本の繊維産業が発展途上国の追上げ(途上国のほうが賃金がかかなり低い)ため、同じような設備では日本より安価な製品を生産できる)によって苦境に陥ったとき、繊維業界がまとまって政府の支援を得て、旧設備を廃棄するとともに自動化の進んだ労働生産性の高い新鋭設備を導入して、競争力の回復をはかったことがある。すなわち、1967年に特定繊維工業構造改善臨時措置法が制定され、国際競争力強化を指導理念とし、企業および業界の体質強化のために過剰設備の計画的処理、設備の近代化、企業の集約化などの措置がとられた。この構造改善は73年で終了したが、繊維工業全体としてみた場合、設備の近代化ではかなりの成果をあげたといわれる。スクラップ・アンド・ビルドは単一の企業におけるものについても使われることがあるが、この場合は主として設備の取換えが大規模な場合であり、そうでない場合はく設備の更新 refurbish plant)が一般的な言い方である。スクラップ・アンド・ビルドは、生産設備のほか、建物(病院、住宅、ホテル等)や構造物(橋、港湾施設、発電所等)でも、古いものを廃棄し新しく建設する場合に使われることがある。

なお、行政機構の肥大化を抑制するための一方法として、機構の新設には新設部局に対応して旧来の部局を整理するというやり方がとられてきたが、この方式についてもくスクラップ・アンド・ビルド方式)という。 ▶▶設備共同廃棄 下田 雅昭

スクラッスブック scrapbook

新聞記事等の切抜きをはりこむためのクラフト紙のつづり。紙片をはったために膨らむ分、背景紙を幅広くしてある。スクラップブックが必要とされるようになったのは新聞、雑誌が普及する19世紀以降である。写真や切符、パンフレット等をはって、アルバムのように使われることも多い。はりつけてしまうと整理し直すのが難しいため、用紙の綴じ具が開閉できる形式のものも用いられる。新聞の紙幅の増大等により、スクラップブックもB4判等の大型の需要が多い。しかし最近では、のりでは必要のない透明ポリエチレン袋のファイルに人気が集中している。

殖田 友子

スクラントン Scranton

アメリカ合衆国ペンシルベニア州北東部の商工業都市。人口8万8107(1980)。18世紀後半に無煙炭生産の中心地として発達し、炭鉱用機械、蒸気機関車、レールなどの工場が立地した。第2次世界大戦後、石炭産業が衰退すると、工業活動はプラスチック、重機械、繊維、金属、機械、ガラス、電気部品、医療器具を加えて多様化した。1866年市制。スクラントン、メリーウッド両大学がある。 菅野 峰明

スクランブル scramble

緊急発進ともいう。地上待機中の要撃戦闘機などが発進の指令により可能な限り短時間で離陸する行動をいう。防空作戦において地上待機中の要撃戦闘機は通常防空指令所の指令により緊急発進して要撃を行う。また戦術航空作戦などにおいて、必要に応じ航空機が緊急発進により任務に就くことがある。緊急発進を行う航空機は事前に所要の兵装と兵員の準備を完了し、直ちに発進できる態勢を整えて緊急発進所などで待機する。 楠弘 親孝

すくり 村主

日本古代の渡来系氏族の姓^①の一つ。〈すくり〉ともいう。村主を〈すくり〉と読むのは、古代朝鮮語の郷、村を意味する *su-kur* (足流) という語に由来する。5世紀以降、主として朝鮮百濟から渡来した技術者集団である漢人^②を、各国内の村に配置したさいに、各集団を統率した渡来人の長を村主と呼称したものらしい。やがて姓制が確立すると、称号である村主も姓の一つとなり、また後には氏名ともなった。村主の姓を称する氏族には、高向^③村主、西波多^④村主、平方村主などがおり、仁徳天皇の時代には百濟などから村落の人たちが、こぞって日本に渡来したとする伝承を持ち、いずれも、後に坂上氏となる東漢^⑤氏の統轄下に、各種の技術者集団の統率者の役割を果たしていたらしい。後には、他の一般氏族と異ならないものとなり、律令政府の下級の役人となっている。氏名の村主には、葦屋村主の同族と称する氏族などがあり、摂津や和泉国などに居住していたことが知られる。 佐伯有清

スグリ *Ribes*

スグリ属 *Ribes* はユキノシタ科の小低木で、果実が食用とされる種を多く含む。和名のスグリは本州中部に分布する *R. sinanense* F. Maek. をさすが、スグリ属の総称名としても、あるいは果樹として利用されるスグリ類の一般名としても用いられている。北半球の温帯域を中心に150種ほどを有するスグリ属の果実は球状の多汁な液果になるものが多く、ヨーロッパや北アメリカでいくつかの種が小果樹として栽培化された。これらの果樹として利用されるスグリ類は、植物体にとげがなく、花が多数総状花序につく「フサスグリ類 (カレント *currant*) と、通常とげがあり、花が少数しかつかないスグリ類 (ゲーズベリー *gooseberry*) に大別される。

スグリ類 (ゲーズベリー) は約700年前にイギリスにもたらされてから栽培改良が始まったという。これはヨーロッパスグリ (セイヨウスグリ、オオスグリともいう) *R. grossularia* L. で、アメリカではアメリカスグリ *R. hirtellum* Michx. をもとに栽培品種が育成された。前者はヨーロッパ大陸からカフカス、北アフリカに原生し、後者は北アメリカ分布種である。アメリカスグリは中国西部や日本の原生種とも近縁である。どちらも成木は高さ1~2mくらい、枝節に目だつとげがあり、葉腋^①に1~3個の指頭大の球形や長球形

の液果を結ぶ。ヨーロッパスグリの果径はアメリカスグリの倍以上ある。果色は淡緑・黄・赤・暗赤色などがあり、果皮には有毛と無毛とがある。甘みや酸味にもちがいがある。冷涼地の重粘土を好み、挿木、株分けでらくに増やせる。1873年日本に渡来したのはヨーロッパスグリと思われるが、今日では北海道に散在する程度で、多湿に強いアメリカスグリの方が日本で栽培には適している。イギリスでは19世紀に700品種をこえたが^②、アメリカからうどんこ病が入って以後栽培が減少した。アメリカスグリの良品種にはブアマン、ダウニングなどがある。生食するほか良質ゼリーとし、最近ではキウイフルーツの果肉とともにヨーグルトに混入されたりしている。

日本原産のスグリ *R. sinanense* F. Maek. は長野・山梨県特産の野生種で、高さ1mくらい、枝にとげがあり、果実直径1~1.2cmで、赤褐色に熟し、食べられる。生食にするほか青いうちに塩漬に利用する。スグリは〈酸っぱい丸いもの〉の意という。アメリカスグリに近いが、日本では品種改良されなかった。

この和名のスグリに近縁の日本の野生種には次のようなものがある。コマガタケスグリ *R. japonicum* Maxim.、トガスグリ *R. sachalinense* (Fr. Schm.) Nakai、エズスグリ *R. latifolium* Jancz.、クロミノハリスグリ *R. horridum* Rupr.、ヤブサンザシ *R. fasciculatum* Sieb. et Zucc. などがある。ヤブサンザシはとげなしの雌雄異株で、束状に上向きにつく赤色球形の液果は食用に適さない。 松井仁

スクリバ Julius Karl Scriba

1848-1905

明治期に来日したドイツ人医師で、日本近代外科の確立に大きく寄与した。ウィーンハイムに生まれ、ハイデルベルク大学卒業。陸軍軍医、フライブルク大学講師を経て、招かれて1881年東京大学医学部教師となる。外科学の講義と診療に従事し、積極的に手術を行ったほか、皮膚病梅毒学、眼科学、裁判医学などを担当した。^① E. von ベルツとともに東大医学部における最後の外人教師となった。日本薬局方の制定に関与したほか、大津事件、濃尾大地震、李鴻章負傷事件などでは現地に出張した。1901年東大を退職し、聖路加病院の外科主任となったが、在日24年、鎌倉で没した。夫人は日本人、墓が青山墓地にある。 長門谷 洋治

スクリャービン Aleksandr Nikolaevich Skryabin 1872-1915

ロシアの作曲家、ピアニスト。調性に代わる新しい和声語法をいち早く実現したひとりで、音楽におけるロシア象徴主義の担い手でもある。1888-92年にモスクワ音楽院に学ぶ。ピアノをG. E. コニユス、N. S. ズベレーフ、V. I. サフォノフに、作曲を「タネーエフ、アレシスキー」に学ぶ。最初の作風は西欧的アカデミズムの伝統を受け継ぎ、ショパンの影響を強く受けたものであったが、94年に出版者ベリャエフの知遇を得、その後数回にわ

【スグリ】

ヨーロッパスグリ。



たる西欧旅行を体験する頃から、著しい進境を示し始める。まず、複雑な音の網の目を呈する彼独特のピアノ書法が獲得され、次いで属和音の変化が多様になり、響きの多彩化が図られる。1904-09年には西欧 (北イタリア、スイス、ベルギー等フランス語圏) に滞在、05年に「ブラバツキー」の「神智学」に触れ、神秘主義的傾向を深める。この頃から、和声語法も、極度に変形された属7・属9系の和音——そのうちの一つが「神秘和音」と呼ばれる——のみを用い、機能と和声 (調性) の根幹を揺るがしていく。この時期の代表作は『「喜悦の詩」や「ピアノ・ソナタ第4番」(同第5番) 等。10年には再びモスクワへ帰るが、それに先立つ08年ころから彼独自の様式は成熟の域に達する。音楽語法面では、ある特定の和音型 (一つとは限らない) を系統的に用いる和音旋法的手法により調性を克服する一方、音楽理念的には、一つの作品を一回の神秘の秘跡と見なすことで、芸術の一瞬のエクスタシーのうちに神との合一を目指すロシア象徴主義的・神秘主義的芸術観を結実させる。そこでの作品は神秘へのいざないに始まり、しだいに恍惚・忘我の境地に入り、ついにはその極限において解脱するというコンテクストをもつ。また、ミクスト・メディアの先駆も見られ、『プロメテ *Prométhée, le poème de feu*』(1910) では色光オルガンを、さらに1903年に着想したが、未完の『神秘劇 *Mysterium*』では色光に加えて舞踏・芳香までもを包含して、総合芸術というより、むしろ秘儀のイベントの実現を図った。ピアノのための『ソナタ第6番』から『同第10番』や『炎に向いて』(1914) 等もよく知られている。 岡田 敦子

スクリュースロペラ screw propeller

▶▶プロペラ

スクリーン screen: half-tone screen

印刷用語。印刷において網版 (写真版) を作る時使用する特殊のフィルムあるいはガラス板。新聞写真を見てもわかるように、印刷された写真の明るい部分は小さい網点、暗い部分は大きな網点であらわされている。このように、写真の濃淡を大小の網点に変える働きをスクリーンがもっている。スクリーンにはコンタクトスクリーンとガラススクリーンの2種があり、前者はプラスチックフィルムにばかし網点を設けたもの、後者は交線ス

クリーンともいって、ガラス板に黒い不透明の直線が交差した格子状に入ったものである。コンタクトスクリーンを感光板に密着して原稿の写真を撮影すると、原稿写真の明るいところは大きな網点、暗いところは小さな網点となったいわゆる網ネガティブができる。ガラス(交線)スクリーンの場合は、感光板の前にごくわずかの距離を隔てて原稿の写真を平行におき、網ネガティブを得る。新聞写真の網点が肉眼でも見え、高級印刷物の網版の網点は拡大鏡を使わなくては見えない。これはスクリーンのほかし網点あるいは黒線があらいか細いかによるもので、日本では1インチあたりの網点または線の数であらわす。たとえば、80線、100線、120線、133線、150線、200線などで、あらひ線数の網版は表現がどぎつ、細かい線数の網版は階調が豊富である。そして粗面の紙にはあらひ線数(たとえば、ざら紙には80線)、平滑な面の紙には細かい線数(コート紙には133線)というような使いわけをする。また、以上の網版用スクリーンのほかにグラビアの製版に用いるグラビアスクリーンがあり、これは直交透明線とそれで仕切られた黒点をもつスクリーンで、グラビア版の小孔を形成する役目をもっている(*グラビア)。このほか特殊な表現(たとえば砂目)をするための特殊スクリーンもある。

山本 隆太郎

スクリーン screen

映写幕の意。白布、白壁、白色塗料面などがあり、材質は現在はビニール系がふつうだが、それ以前にはキャンバスに白色塗料(酸化マグネシウム)を塗って使用した。アルミと青銅の粉末を油性塗料に混ぜて塗布し、反射効率をよくしたシルバースクリーンもサイレント時代から用いられ、〈銀幕〉はその訳語である。これは、画面の明るさ、いわゆる〈ヌケ〉をよくするため、とくに大劇場で用いられるが、スクリーンの近くで斜めから見ると暗くなるのが欠点である。ほかにビーズ・スクリーン(布地の表面にガラス粒を塗布したもの)、ミラー・スクリーンなどもあるが、主として16mm フィルムを明るく見せるために用いる小型のものである。ほかに背面映写用の透過式スクリーンとして、白布、スリガラス、半透明ニカワ質膜などが用いられる。トーキー時代に入ってから、背後のスピーカーの音を通りやすくするため、直径1mm程度の穴を、約5mm間隔であけたサウンド・スクリーンを使用するのがふつうだが、このため明るさが5〜8%程度失われる。

〔スクリーンのサイズ〕 1940年代までの映画館は、縦横の比率が1対1.33のスタンダードのスクリーンを設置すればこと足りた。しかし50年代に入って、テレビへの対抗策としてさまざまなワイド・スクリーン映画が製作され始めたため、正面いっぱい大スクリーンを設置し、左

右および上部のスクリーン・マスクを作動させて、1.33のスタンダードから1.66〜1.85の、いわゆるビスタビジョンサイズ、2.35のシネスコサイズ、さらに最大限の70mm映画(比率はトッド AOとテクニラマが2.13、MGMカメラ65/パナビジョンは2.65。なお、大型ネガによる純正70mmは70年代半ばで姿を消し、現在ではシネスコサイズのパナビジョンから拡大した70mmプリントが用いられている)まで、必要に応じて使いわけられるようになった。

〔特殊なスクリーン〕 ワイド・スクリーン映画の最初で最大のものは、1952年9月30日にニューヨークで公開されたシネラマだが、画面サイズだけでなく、スクリーンの構造も特殊だった。中央部が奥深く湾曲し、間口20mとして全長24mという巨大なスクリーンへ、3台の映写機から一斉に交差映写して、三つの画面を横に広く継ぎ合わせるという方法をとった。そのスクリーンは、幅25mmのリボン数千本、互いに重なり合うように張りめぐらし、スクリーンの両端でもリボン面が正面を向くようにして、画面の乱反射を防いだ。しかし、このあまりにも大がかりなシステムはしだいに70mmにとってかわられ、スクリーンの維持管理(張り替えなど)に経費がかさむうえ、立体映画のときはメタル・スクリーンを仮設しなければならぬなどの不便が多いため、しだいに姿を消しつつある。 森卓也

スクリーンティニー Scrutiny

イギリスの文学批評季刊雑誌。1932年、F. R. リービス、夫人のQ. D. リービス、L. C. ナイトらを編集者としてケンブリッジ大学を中心に創刊。精密・厳格な批評の基準を求め、文学批評という行為を通じて、一国の文化を高めようという使命感から出発した。時に独善的で、偏狭に陥る弊はあったが、テキストの精読を通じて、作品の核心に迫り、技法とモラルとの均衡を称揚する一貫した姿勢は、イギリスの批評の水準を向上させるのに貢献した。53年に廃刊。 出淵 博

スクール・バス school bus

児童・生徒の通学に利用されるバス。遠距離通学にとまなう児童・生徒の時間・労力のむだをはぶくため利用されるほか、幼稚園や盲・聾・養護学校では通学途上の交通事故防止の点から使われている。とくに、過疎、僻地における小規模校の統廃合がすすむなかで通学距離が延長され、その利用も増加している。島嶼地域では海上交通のためスクール・ボートがある。スクール・バスは、1920年代以降アメリカにおいて地方の小規模校解消策として発達したが、日本では、第2次大戦後僻地学校・特殊教育学校生徒のために利用されるようになり、最近では幼稚園児の送迎バスとして普及している。また、僻地学校・特殊学校用のスクール・バスの購入には法令にもとづき国庫補助がなされる。 権井 岑夫

スクレ Sucre

ボリビア中部に位置する都市で、チュキサカ州の主都。人口6万3625(1976)、標

高2600m。ラ・プラタ、チュキサカ、チャルカスの名で呼ばれたが、1839年から初代大統領にちなんで現在名となった。ボリビア共和国の憲法上の首都で、最高裁判所があるが、他の政治・行政機関は1900年以降ラ・パスに移された。1825年のボリビア独立宣言はこで行われた。気候は温暖で、1538年に建設され、植民地時代は繁栄したが、今は当時の古い建物を多く残した静かな都市である。1624年創立の大学や国立図書館、古文書館もあり、文化的に重要である。 中川 文雄

スクレ Antonio José de Sucre

1795-1830

ボリビアの初代大統領。在任1826-28年。ベネズエラのクマナに生まれ、早くから独立革命軍に参加し、16歳で大佐に昇進。1822年エクアドルを解放したピチンチャの戦いに勝利した。23年ボリバルに随行してペルーへ転戦し、翌年12月9日アヤクチョの戦いでペルー王党軍を撃破、14年にわたる大陸北部の解放戦争を終結させた。その後、ラ・パスの王党軍を破り、25年2月ラ・パスにおいてアルト・ペルー(現、ボリビア)の独立を宣言、翌年終身の初代大統領に任命されたが、2年で辞任し、ボゴタに帰還した。30年グラン・コロンビアの制憲議会議長に選出されたが、連邦主義者と中央集権主義者との溝は埋めがたく、共和国は実質的に崩壊。永住地と定めたキトに向かう途中、コロンビア南部バスト近郊で暗殺された。 上谷 博

スクレーパー scraper

①鉋山において掘り出された岩石や鉋石片をかき寄せ、運搬車に積み込むための掘削刃付きすくい箱。ウィンチを利用して引綱でスクレーパーを引き寄せ、シューターから運搬車などに積み込む。からになったスクレーパーは戻し綱によって元の位置に戻される。

②土木工事に使用される建設機械。道路建設や広大な宅地造成に使用する。車体下部に掘削刃のついた土砂運搬用容器(ボウル)をもち、ボウルを下降して土砂の掘削積込みを行い、可動式のふたにより土砂の流出を防止して目的地まで運搬、捨土を行う。 ▶▶建設機械 室 渡 朗

③打製石器の一つ。搔器、削器と訳される。剝片に細かな調整を加えて刃部を作り出したもので、細長い剝片の短辺の一つに刃を持つもの(エンドスクレーパー)、長辺の一つに刃をもつもの(サイドスクレーパー)などがある。中期旧石器時代以降各地で見られ、主として動物の解体・加工に用いられたと考えられる。縄文時代の石匙ともこの一種。 西田 泰民

スクロール scroll

巻軸装飾のこと。古文書などの巻物をさす語であるが、その形に似せた巻紙形、渦巻形、巻毛形、雲形、蔓形、唐草文様の装飾、模様をも意味する。工芸品、彫刻、家具および建築に用いられ、上部の構材を支える持送り(コンソール)、部材の端部ないし縁部に使われることが多い。このうち、例えばイオニア式柱頭にみられるような渦巻装飾はボリュートの名で

区別されることがある。バイオリン族楽器の棹の先端の巻形部分、船の舳先の渦形装飾も同名でよばれる。 日高 健一郎

スクワイア squire

語源的には中世以来の身分概念である〈エスクワイア esquire〉と同じ。貴族の下に位置し、貴族とともにイギリス近代初期の支配階級となったジェントリーの中核をなす。家紋の使用を認められた富裕な地主。身分的には〈ナイト〉よりは下で〈単なるジェントルマン〉よりは上に位置し、1688年ころで3000家族程度という推計もある。ひろく〈富裕な地主〉という意味でも使われ、〈スクワイアラークィ squirearchy (地主支配体制)〉とかくスクワゾン squarson (地主兼牧師)といった言葉も生まれた。▶▶ジェントルマン 川北 稔

スクーン Scone

イギリス、スコットランドの中部、ティサイド州(旧パースシャー)南部にある村。人口約3000。パースの北東郊外、ティ川左岸近くに位置する。ピクト人の部族中心地であったが、9世紀にスコット人がピクト人を併合してアルバン王国を建国した際にその首都となった。このとき、国王ケニス・マカルピンがエティブ湖畔の城から戴冠用玉座をここに移し、以後〈スクーンの石(運命の石)〉と呼ばれて1651年のチャールズ2世に至るまでスコットランド王の戴冠場所となった。しかし石自体は1296年にエドワード1世がウェストミンスター・アベールへ運び去った。

長谷川 孝治

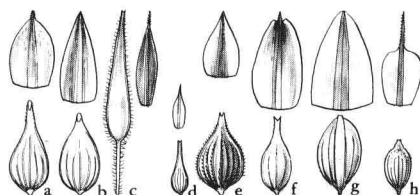
すけ

〈助〉の字をあてる。他人に対して一方的に無償で労働力を提供することであるが、とくに主従関係にある者の間で従属している者が主家に対して提供する労働をいう。農地改革前の主として東北地方の農村にしばしばみられた。スケという言葉で主家への労働提供を表すのは岩手県の一部であるが、同様の労働をヤトイ(雇い)、テツダイ(手伝い)、テマヅトメ(手間勤め)、オヤク(お役)などともいう。スケの内容は、岩手県二戸郡のある村の例では、田植、田の草刈り、稲刈りなど、毎年ほぼ一定の日数に決まっている農作業と新伐り、すす掃き、屋根の草取りなど、必要に応じて働きに出る家事の諸作業であった。スケは一般的には主家から宅地や田畑を貸与されている従属的小作農が小作料の一部として労働力を主家に出すものであるが、必ずしもすべてが小作料として理解できるわけではない。むしろ「本家の」分家に対する庇護と分家の本家に対する奉仕という日常的な相互給付関係のなかでの労働力提供という性格が強いといえる。分家が労働力を提供するのに対し、本家は労力以外の形で反対給付をしたのであり、古くはこれが「ゆい」であったとも考えられる。 福田 アジオ

すけ スケ

歌舞伎用語。狂言作者、役者、竹本の太夫などで、地位の高い実力者が、〈助入型〉の資格で一座に加わった場合、番付や看板の連名に、その者の肩書に付ける

【スケ】



- ①—ジュウモンジスケ(a)
- ②—カサスケ(b)
- ③—タヌキラン(c)
- ④—シラスゲ(d)
- ⑤—ナキリスゲ(e)
- ⑥—カンスゲ(f)
- ⑦—タガネソウ(g)
- ⑧—アオスケ(h)

a~hはそれぞれの雌花の鱗片と果胞。



用語。したがって、意味の軽い補助作者、助演者の類ではない。作者の場合、合作制の作者グループに、立役者と同等もしくはそれ以上の作者が加わっているとき、客座に据えて名の右肩に〈スケ〉と明記した(特にスケの文字は用いないこともある)。役者の場合、年間契約で他座に属しているスター役者が何らかの事情でその興行だけ一座に特別加入するとき、やはり〈スケ〉と肩書して特別扱いをする。例えば、1783年(天明3)森田座の顔見世興行の座組に、4世岩井半四郎がスケとして出勤した。この年度の半四郎は中村座と契約していたが、たまたま火災のため中村座が興行できなかったため、当興行だけ乞われて、女方が弱体だった森田座に加入出演したのである。 服部 幸雄

スケ 菅 sedge: Carex

菅笠を編むカサスケやたまに庭に植えるカンスゲを含むカヤツリグサ科のスケ属植物の総称で、植物学的にスケと呼ぶ特定の種はない。

多年草で、地中に長い地下茎を出すものもあるが、細い葉と花茎が密に叢生して株を作る方が多い。葉はおおむね根生し、多数あり、細い線形で、硬いものが多く、縁は細い鋸歯があってざらつく。花茎は細く、初夏のころ、葉の間にあらわれ、その中部から上部にかけて葉状の苞があり、苞の腋に小穂をつける。小穂は原則として数個で、総状に並び、単性

で、頂の小穂に雄花が、側小穂に雌花がつく。雄花は鱗片に守られた3本のおしべのみ、雌花は1本のおしべのみからなり、果胞と呼ぶつぶ形の袋に入って、めしべの柱頭だけが袋の先の小孔から出ている。果胞とそれを守る雌の穎が密に並んで雌の小穂を作っている。花序における小穂の並び方、雄花と雌花の分布、果胞の形がスケの種の同定と分類に重要である。スケ属 Carex はカヤツリグサ科の中では最大の属で、世界中に約1800種も知られ、アジアと北アメリカに最も種が多く、アフリカと南アメリカに少ない。原始的な形をしたスケと、スケ属に近縁でさらに原始的なヒゲハリスケ属 Kobresia がヒマラヤ山地、中国南部と東南アジアに多く見られ、スケの起源はこのあたりにあると見られる。

カンスゲ C. morrowii Boott は、美しく、最も普通の形をした日本特産のスケで、福島県以西、九州までの主として太平洋側の山林に生える。幅1cmくらいの硬い濃い緑の葉と、高さ30cmほどの細い花茎が密生し、茶色の雄小穂1個と、黄緑色の雌小穂5個くらいがある。葉に白い斑のある品種がシマカンスゲで、植えて観賞する。カサスケ C. amplifolia Boott ssp. dispalata (Boott ex A. Gray) T. Koyama et

Calder は北アメリカ西海岸の基本変種から隔離分布をした東アジアの亜で、湿地に生え、地下に長くはった根茎がある。円柱形の穂4個くらいが総状に並ぶ。長い葉を刈り取って干し、菅笠や簀を編む。雨合羽の普及する以前には農村で菅笠や簀の需要が多く、石川県、三重県、千葉県等の沼田に植えられたこともあった。

変わった形のスゲについて記すと、タガネソウ *C. siderosticta* Hance やササノハスゲ *C. pachygyne* Fr. et Sav. では葉が線形でなく、幅2cm余りの披針形をしているので、整ったがや笹の葉に見立ててこのような名前がついた。小穂が減りただ1個になって、槍のように茎の頂についた形となったものがハリスゲ *C. onoei* Fr. et Sav., シラコスゲ *C. rhizopoda* Maxim. 等である。逆に小穂の数が非常にふえて、花序が総状でなく、円錐状をしている大型のスゲが熱帯に多い。日本では九州に見られるジュウモンジスゲ *C. cruciata* Wahlenb. がその例である。また、マスカサスゲ *C. gibba* Wahlenb. やヤブスゲ *C. rochebrunii* Fr. et Sav. では小穂に柄がなく、花序は穂状になっている。スゲは普通、初夏に花の咲く植物であるが、葉が硬く鋸歯が鋭く、葉を切るほどというナキリスゲ *C. lenta* D. Don や伊勢神宮にちなむジグウスゲ *C. sacrosancta* Honda では秋に花が出る。スゲはみな多年草であるが、富士山ろくの山中湖にあるカヤツリスゲ *C. cyperoides* Murr. はまれに見る一年生の例である。

生態的に見るとスゲはあらゆる生態条件下に見られるが、カサスゲのように湿地に生えるスゲはたいへん多く、山の溪流に沿って見るナルコスゲ *C. curvicolis* Fr. et Sav. では、細い柄をもった円柱形の小穂が垂れ下がり鳴子思わせるが、同じ鳴子形の花序をもち、葉の鋸歯が手を切るほど鋭いというテキリスゲ *C. kiotensis* Fr. et Sav. は山中の湿地に、ゴウソ *C. maximowiczii* Miq. は水田のあぜに多い。アゼスゲ *C. thunbergii* Steud., カワラスゲ *C. incisa* Boott, 大きな果胞をもったオニスゲ *C. dickinsii* Fr. et Sav., ウマスゲ *C. idzuroei* Fr. et Sav. 等みな湿地生である。

丘陵地の林の中にもスゲは多い。最も普通のアオスゲ *C. breviculmis* R. Br. やシバスゲ *C. nervata* Fr. et Sav. は林下や草地に生え、やや湿った林床には《万葉集》に出てくるシラスゲ *C. japonica* Thunb. ssp. *alopecuroides* T. Koyama がある。このスゲは高さ70cmくらい、葉の裏面が粉白色で、日本からヒマラヤまで分布する。乾いた林下には鱗片が濃い紫褐色で美しいヒカゲスゲ *C. lanceolata* Boott や、東京・池上の本門寺にちなむホンモンジスゲ *C. pisiformis* Boott, 山地の広葉樹林下には美しいタマツリスゲ *C. filipes* Fr. et Sav., ミヤマカンスゲ *C. dolichostachya* Hayata ssp. *glaberrima* T. Koyama 等が見られる。

海岸のスゲとしては、カンスゲを一段

と大きくしたようなオニヒゲスゲ *C. wahuensis* C. A. Meyer ssp. *robusta* (Fr. et Sav.) T. Koyama がハワイから日本、台湾まで分布する。また砂浜の*コウボウムギやコウボウシバ、塩性湿地に生えて、その長い葉でクグ縄という縄をなうシオクグ *C. scabrifolia* Steud. がある。

高山にもスゲは多い。高層湿原に生えるスゲには美しいヤチスゲ *C. limosa* L. や細くとがった果胞が放射状に並んだミタケスゲ *C. michauxiana* Böckl. ssp. *asiatica* T. Koyama があり、岩場には小穂の色や形の美しいスゲも多い。たとえば濃褐色でふさふさした楕円形のタスキの尾の感じの小穂をつけるタヌキラン *C. podogyna* Fr. et Sav. と、それを小型にしたコタヌキラン *C. doenitzii* Böckl. やミヤマアシボソスゲ *C. scita* Maxim., 褐色で細い小穂のイワスゲ *C. stenantha* Fr. et Sav. 等がある。スゲ類は分布が狭く、生態的にもすみわけがはっきり決まっていた、雑草化しているものは一つもない。

スゲ属 *Carex* は種数も多く、普通にみられる植物であるが、その狭長な葉をカサスゲのように繊維原料として利用するほか、斑入りの葉をもつ一部の種が観賞用にされることを除くと、ほとんどの種は現在、未利用である。

小山 徹夫
スケアガートかんにゅうがんだい スケアガート貫入岩体 Skaergaard intrusion
グリーンランド東部のスケアガート半島にある*層状貫入岩体。層状貫入岩体のなかで、最も詳細に研究され、岩石学の進路に大きい影響を与えた。

この岩体は1930年代のはじめに探検隊によって発見された。その層状構造のために、海上から見ると一見堆積岩のように見えたが、実際は斑レイ岩であった。軸が南に急角度で傾いた漏斗状の岩体で、長方形の露出面を示し、南北の直径が約9.5km、東西の直径が約7kmであり、円錐の体積は約500km³に達する。先カンブリア時代の片麻岩と白亜系下部始新統を貫く始新世の貫入岩体である。周縁と上部の周縁相に包まれて層状部がある。層状部は下から上へ向かって、カンラン石斑レイ岩、斑レイ岩、フェロ斑レイ岩、石英フェロ斑レイ岩が重なり、さらに末期分化物はグラノファイエーとして上部周縁相に注入する。地表で見られる層状部の厚さは約3.5kmであるが、この岩体は、それよりも下方に10kmもつづいていと考えられていた。しかし、重力の測定結果から、このかくれた部分はずっと小さいらしいといわれている。層状部の空間を占めていたソレアイト質のマグマは、きわめてゆるやかに冷却結晶しながら対流し、円錐体の下部から上部へ向かって、順次に結晶が堆積したと考えられる。

諏訪 兼位

すけいしゅり 図形処理

コンピューターによる視覚情報の処理技術である*コンピュータグラフィックスのうち、主として幾何学的図形を対象とする分野をいう。平面上の図形を対象とする二次元処理、立体図形を対象とす

る三次元処理があり、いずれも線分、円弧、各種曲線、あるいは平面、曲面をパラメーターで定義し、これらの集合として図形を表したものをコンピューターで処理する。

主要な用途はCAD/CAMの分野で、プリント基板設計製造、自動車、船舶、ビル、橋梁などの設計など広い分野に使用される。また、単純な図面作成用のみでなく、構造、振動、熱、運動、流体力学などの各種解析をコンピューター処理で行うことが可能になる。また、DNAなどの高分子化合物の分子配列立体モデルをコンピューターにより作成し、図形表示装置で表示するなど、教育、研究の分野での応用も重要である。▶▶ CAD

林 英治

すけいにゅうしゅつりょくそうち 図形入出力装置

コンピューターで図形処理を行うのに使用される装置。入力にはライトペン、グラフィックタブレット、ディジタイザー、ジョイスティック、マウスなど、出力にはグラフィックディスプレイ、グラフィックプリンター、プロッターなどを用いる。

図形出力でもっとも多く使用されるグラフィックディスプレイ graphic display は、陰極線管(CRT)の上に図形を表示するものであり、図形を描かせるための電子ビームのスキャン方法により、ランダムスキャン法とラスタースキャン法があり、また表示した像を画面上に保持しておくことができる蓄積管を使用したものと、像が残らないふつうのブラウン管を使用し、図形情報を蓄積したメモリーから繰り返し読み出して表示するリフレッシュ方式がある。

ランダムスキャン法では、表示する図形を直線、円弧などの要素図形に分解し、電子ビームがそれぞれの図形を描くような電圧波形を発生させて偏向電極に加え、これをつなぎ合わせてさまざまな図形を発生させる。ラスタースキャン法では、表示すべき図形をビットパターンに分解して画面メモリーに書き込み、通常のテレビと同様なラスタースキャンにより図形を表示する。ランダムスキャン方式では特殊な高精度CRTを必要とするので高価になるが、精密な図形を表示するのに適している。ラスタースキャン方式では通常のテレビ装置程度の低価格CRTでも図形表示が可能で、またドット密度を上げメモリーを大きくすれば実用的には十分の精度で図形表示ができる。とくにラスタースキャン方式では、カラーの表示や図形の塗りつぶしが容易に行えるので、広範囲のコンピューターグラフィックスのアプリケーションに使用される。

図形出力のハードコピーを製作する装置には、X-Yプロッターおよび各種のドットプリンターが使用される。高精度の図形をドットプリンターで出力するには、静電式、レーザービーム式などのノンインパクトプリンターが使用される。カラー図形出力用にはカラーX-Yプロ

ッター、カラーインクジェットプリンターなどがある。

図形入力装置のうち、ライトペン、グラフィックタブレット、ジョイスティック、マウスは、ディスプレイ上の図形と対話的な処理を行いながら図形情報を入力する装置である。ディジタイザーはとくに高精度の図形入力を行うための大型のタブレットであり、図面上の点の座標と図形コマンド(例えば2点の座標とそれを結ぶ線分のコマンド、円の中心点の座標と半径と円を示すコマンド)の形で図形情報を入力する。このほか、不規則な図形や絵などのイメージ情報を入力するためには光学スキャナーが使用される。光学スキャナーは図形を光学的にスキャンして、ビットパターンに分解し入力する。カラーフィルターで三原色に分解してスキャンし、カラー図形を入力することも可能である。

▶▶▶入出力装置 林英治

すげがさおどり 菅笠踊
*笠踊のうち花飾の付いた花笠の踊りとは異なり、飾りのない菅笠を持って踊る民俗舞踊の一種。越中五箇山で知られる富山県東砺波郡平村の、小麦や菜種はヨイナではじまる《麦屋節》で踊るものが有名である。この踊りは、黒紋付、袴、白足袋の青年たちが、白襷をつけ、刀をさして、横一列に並び、三味線、尺八、胡弓、四つ竹、締太鼓のはやしと歌で、菅の文字笠を直線的にきびきびと動かして踊る。

吉川周平
すげがさざ 菅笠座
室町時代、菅笠を販売した商人の座。古く《万葉集》にもく難波菅笠とみえ、菅笠の産地として知られた摂津深江の菅笠商人の座が著名である。深江の菅笠商人は、堺、天王寺、京都以下山城国、奈良以下大和国等に入りし、それらの地で彼らが本所と仰ぐ領主に座公事を納入し、座を結んでその地域における販売権を独占していた。そのような座垣間見ることができるのは、京都と奈良、大和の場合である。京都には本座と新座があり、本座は藤原氏氏長者を、新座は二条家をそれぞれ本所と仰いで販売権の独占を保障されていた。15世紀末には問丸が両座の商人を統轄するようになっており、本所による販売権独占の保障もこの問丸を通じてなされるようになっていた。奈良では興福寺大乗院、同一乗院、春日社の三者を本所と仰ぎ、三者はそれぞれ年貢を徴収する代りに、奈良および大和国の販売権独占を保障していた。

神田千里
すげかつきょうき 資勝卿記
正二位権大納言日野資勝(1577-1639)の日記。法名にちなみ《涼源院記》ともいう。伝存写本は割合に多く、また欠逸年月が多いが、日次記は1612年(慶長17)より38年(寛永15)までで、ほかに《神宮記》(1597-99、1619-20)、《文留》(1637)などの別記が存する。資勝は早くから徳川家康に昵近し、ことに1630年より39年まで9年間*武家伝奏を務めたため、その方面での興味深い記事が散見し、記事は概して詳細である。

橋本政宣

すげこう 助郷

近世の*宿駅が常備人馬(伝馬)で負担しきれぬ大通行のとき、補助的に人馬を提供する助人馬出役を定められた村をさすが、この助人馬をも助郷、あるいは助郷役という。幕府直轄の*五街道のうち往来のさかんな東海道、美濃路では、恒常的な助馬助成を特定の村に依存する必要が早くから生じ、1637年(寛永14)には幕府や諸藩がそれぞれの領内宿駅に助馬村を定めている。その後寛文期(1661-73)に中山道、日光道中をも加え、助馬村の恒常的な制度化としての定助(定助郷)を生み、さらにその後定助では不足のときに人馬を補う村を定め、これを大助と呼んだ。しかし、これらの助郷は支配関係にとらわれ、宿駅近くの村を含まないのが一般的で、また村落はすでに小農中心の村に変容しており、そのため幕府は1694年(元禄7)より助郷制改革を断行した。すなわち定助、大助を東海道の品川〜岡崎間の宿駅に、大助を他の東海道宿駅と美濃路宿駅と木曾を除く中山道宿駅とに設け、2年後には日光道中宿駅にも大助を設け、宿間屋が支配関係を異にする村からも助郷帳に定める助郷高に応じて、人馬を直接徴発することになった。ただ交通量は依然として増加し、その負担は助郷に転嫁されたので助郷村の疲弊を招いた。そこでその対策を必要としたが、結局品川〜岡崎の助郷が1725年(享保10)に定助に統一されることとなった。このときに他の宿駅の大助も実質は定助となったとされているが、これらの定助村は宿駅へ頻繁に通い勤めすることが可能な近域の村方をほぼ網羅していた。同期の奥州、甲州両街道では道中奉行、勘定奉行の指定する助郷は設けられていないが、支配領主が指定する助人馬を出す村が存在した。一方、五街道外の脇往還でもそれぞれ領主が大通行に備え、宿駅に助人馬を差し出す郡や村組や特定の村々を指定することが広くみられた。

五街道では享保以後も年を追うごとに助郷負担は増大した。助郷役は農繁期に多く、また宿駅の不正な割当でも多く、宿と定助間で割付けをめぐる争論が多発し、この結果、助郷惣代を設け助郷会所で助郷利用を監視する宿が増大した。また、窮迫した定助村が休役を願うことが宝暦期(1751-64)には広範化し、代りに指名される村との間での争論も増大した。代りに務める代助郷は一般に遠隔地のため、代金納にすることが多かった。この人馬請負の稼ぎと宿助郷の負担軽減のため宿駅、定助は助郷拡大を望み、また幕府も定助を補助加助郷、増助郷、当分助郷などの諸種の助郷を設け宿駅制維持に努め、これらに指定される村と宿、定助との対立もしばしば発生した。幕末には宿伝馬利用が激増し、助郷の指定が広範に行われ、宿、助郷の負担を増大させるとともに、両者間の緊張を高めた。幕府を倒した明治維新政府は1868年(明治1)5月、助郷拡大に加え宿駅と勤方を均等にする制度を実施したが、2年後には

農民の反対により元どおりとし、さらに72年に伝馬所とともに助郷を廃止し、助郷は消滅した。

▶▶▶駅通司 深井基三

スケジューリングりろん スケジューリング理論 theory of scheduling
たとえば工場において、何種類かの仕事を何台かの機械で処理する場合を考える。それぞれの仕事がいくつかの作業から成り、それらの作業の実行順序あるいは仕事の間の先行関係が与えられている時、あるいはまた仕事の処理に要する人員、機械、資金などに関する何らかの制約が与えられている時に、それらの制約条件を満たしつつ総費用または総所要時間を最小にするにはどうすればよいか、といった問題に対する解答を与えるのがスケジューリング理論である。上のような問題は特に機械スケジューリング問題とも呼ばれるが、多くのスケジューリング問題は、何らかの機械スケジューリング問題として数学的に定式化することができる。

機械スケジューリング問題の代表的なものとしては、フローショップ問題、ジョブショップ問題、並列ジョブ問題などがある。フローショップ問題では、すべての仕事が同一の作業群によって構成され、それらの機械による処理順序も同一である場合をいう。それに対してジョブショップ問題では、それぞれの仕事を構成する作業の機械による処理順序が異なる。また並列ジョブ問題では、それぞれの仕事がいくつかの同一種類の機械のうちのいずれか1台によって処理される。スケジューリング問題におけるスケジュールの効率性を評価する尺度としては、スケジュールの総所要時間、それぞれの仕事の処理を完了するのに要する時間の総和、それぞれの仕事が納期を有する場合の納期遅れの最大値、あるいはその総和などをはじめとして多くのものが考えられる。

スケジューリング理論の発展のきっかけとなったジョンソンの問題は、1959年に以下のような2機械フローショップ問題として与えられた。たとえば、それぞれの仕事の作業の処理時間が図のように与えられた時に、すべての仕事が機械M₁、M₂の順に作業を処理する場合の総所要時間を最小にするスケジュールを求めたい。そのためには処理時間の中の最小値を求め、それがM₁にあればその仕事を最初に実施し、それがM₂にあれば最後に実施する」という規則(ジョンソンの規則と呼ばれる)にしたがって次々に仕事の

【スケジューリング理論】図

[仕事]	[機械]	
	M ₁	M ₂
A	4	5
B	6	3
C	1	6
D	7	9
E	5	2

平凡社大百科事典

8

9

スケジュー

順序を決定すればよい。したがって③の例の場合にはC→A→D→B→Eの順に処理すれば総所要時間が最小になる。

スケジューリング理論の分野では、ジョンソンの問題以後も非常に数多くの問題が提起され、いろいろな評価尺度に対する最適スケジューリングを得る方法が提案されている。しかし、たとえば機械の台数、仕事の数などが多い場合に、厳密な最適スケジュールを求めるにはコンピュータを用いてもかなりの計算時間を要することが多く、効率的な解法アルゴリズムを構築することが最近のスケジューリング理論の主要な研究の対象となっている。

大山達雄

スケソウ→スケトウダラ

スケッチ・ブック The Sketch Book

アメリカの作家W. アービングが紳士ジェフリー・クレイヨン Geoffrey Crayon の筆名で発表した代表作。1819-20年分冊出版。山中で出会ったふしぎな男たちの酒を飲んで眠りこみ、目覚めて家に帰ってみれば20年経っていたという浦島太郎風の《リップ・バン・ウィンクル》や《スリーピー・ホロウの伝説》などアメリカを舞台にした物語、インディアンに同情を惜しみなく注ぐ《フィリップ王》、ヨーロッパの綺談《幽霊花婿》、イギリスの印象記《ウェストミンスター・アベール》など、短編、スケッチ34編を収録。出版されるや、典雅な文体、上品なユーモア、パーソナルのため一躍有名となり、アメリカ文学の存在をヨーロッパに認めさせた。日本でも《リップ・バン・ウィンクル》の韻文訳が山田美妙編《新体詞選》(1886)に収められたのをはじめ、数多くの翻訳が出版され、英語の教科書としても明治時代以来親しまれている。

島田 太郎

スケート ice skating

靴の底に金具を取りつけたスケート skate と呼ぶ滑走具をはいて氷上を滑走するスポーツ。靴底の金具はブレード blade (滑身) といい、縦に細長く、これが滑走の土台となっている。スケートをする場所とはリンク rink と呼ぶ。スケート競技としては、スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケーの3種類がある。アイスホッケーについては当該項目を参照されたい。

〔歴史〕 スキーが積雪地方の踏雪具として発達したのと同様に、スケートも湖や沼の多い氷の国の踏氷具を起源としている。石器時代から北欧地方の住民は、冬季結氷した湖沼を通行するため獣骨を利用した運搬用具を使用していた。これが娯楽にも用いられ、木材を併用した滑走具となり、さらに金属の発達とともに現在のスケートに発展した。古代スカンジナビアの住民が一種の獣骨製踏氷具をもっていたことは神話にも出ている。北方民族の踏氷技術はやがてドイツからオランダ、イギリスに伝わった。ヨーロッパ各地から発掘される遺物の獣骨にはとこ

ろどころに穴があいているが、おそらくこの穴に紐を通して靴に結びつけて滑ったのであらうと思われる。一説には、木製、鉄製ともオランダ人の発明といわれるが、たしかにオランダでは12世紀から運河の建設が進み、冬季結氷した運河を滑走することは道路代りになるだけでなく、娯楽としても歓迎された。鉄製スケートはしだいに改良が重ねられ、17世紀にはいると、スポーツとしてのスケートの愛好家が増えていった。1742年(1642年ころともいわれる)には最初のスケート団体、エジンバラ・スケートクラブがスコットランドで設立され、72年にはフィギュアスケートの最初の技術書を、イギリスの砲兵士官ロバート・ジョーンズが著している。スケートが近代化されたのは19世紀後半で、1892年には世界各国から代表が集まって世界の統轄団体、国際スケート連盟 International Skating Union (ISU) を創立、翌93年に第1回スピードスケート世界選手権大会をアムステルダムで、96年にはフィギュアスケート(男子)の第1回世界選手権大会をペテルブルグで開いた。スケート競技が冬季オリンピックの正式種目になったのは1924年フランスのシャモニーでの第1回大会からである。なお、1970年からは世界スプリント・スピードスケート選手権大会も開かれている。

〔日本〕 江戸時代から東北地方、北陸地方では、子どもが下駄の底に割り竹を結んだり草履にとりつけたりして冬の遊びにしていた。金具をつけたものは下駄スケートと呼ばれ、昭和初期まで用いられた。スポーツ史としては、1877年アメリカ人 W. P. ブルックスが札幌農学校(北海道大学の前身)へスケート器具を持ってきたときから始まる。その14年後の91年3月には同校出身の新渡戸稲造がアメリカから3足のスケートを持ち帰った。学内ではこのスケートが爆発的人気を呼び、札幌はスケートの街と化すほどであった。また、1905年、中央線が諏訪湖畔へ通じるようになると、諏訪湖は日本におけるスケートの拠点となり、09年にはスピードスケートの諏訪湖一周大会が開かれた。これと並行してフィギュアスケートも研究され、20年には河久保子朗らによって日本最初のスケート団体、日本スケート会が誕生した。24年、3競技を包含した全国学生氷上競技連盟(現在の日本学生氷上競技連盟)が生まれ、翌25年に第1回学生選手権大会が松本市外六助の池で開かれた。日本スケート会は26年に国際スケート連盟に加盟、29年には大日本スケート競技連盟を結成した。これが現在の社団法人日本スケート連盟 National Skating Union of Japan (NSU) である。結成の翌30年第1回全日本選手権大会を青森県八戸と日光で開催した。32年にはアメリカのレーク・プラシッドで開催された第3回冬季オリンピック大会に初めて日本代表選手を派遣した。なおアイスホッケーは72年日本スケート連盟から分離して国際アイスホッケー連盟に加盟、日本アイスホ

ッケー連盟となっている。

【スピードスケート speed skating】 スピードスケート王国として君臨しているのはノルウェー、スウェーデン、フィンランドの北欧3国であるが、近年ではソ連、オランダ、アメリカが頭角を現している。なかでも、1912年の世界選手権で4種目を完全制覇し、14年につくった1500m世界記録が23年間破られなかった O. マティゼン(ノルウェー)、24年と28年のオリンピックで計5個の金メダルを獲得した C. ツンベルグ(フィンランド)、28年と36年のオリンピックで4個の金メダルの I. バラングールド、52年に1万mで世界記録を出し、同年のオリンピックでは大差をつけて金メダル3個を獲得した H. アンデルセン(ノルウェー)、56年と60年のオリンピックの500mと1500mに優勝した Y. グリシン(ソ連、札幌オリンピック(1972)で500mを除いて三冠王となり、2週間後の世界選手権で4種目制覇した A. シェンク(オランダ)、77年以後3年間の世界選手権大会と80年のオリンピック(5種目)で全種目に優勝し続けた E. ハイデン(アメリカ)の名は永く記憶されるであろう。女子は世界選手権大会が1936年から、オリンピック種目が60年からと遅れたが、L. スコプリコワ(ソ連)らの名選手を生んでいる。

日本のスピードスケートは昭和期に入ると滑走技術、競技運営ともに著しく進歩したが、技術の点で日本をはるかにしのいでいたのが満州であった。1931年のヘルシンキの世界選手権大会に参加した木谷徳雄、石原省三、河村泰男の3選手は満州の出身で、翌年の第3回冬季オリンピック大会(レーク・プラシッド)にも内地の潤間留十とともに日本代表として出場している。次いで36年の第4回大会(ガルミッシュ・パルテンキルヘン)では石原省三が500mで第4位に入賞した。第2次大戦後、51年に国際復帰を果たした日本スピードスケート陣は3選手をダボスの世界選手権大会に派遣し、内藤晋が500mに優勝した。国際交流が活発になるにつれて競技力も向上し、鈴木恵一は世界選手権の500mに3連覇、女子も長久保初枝、長屋真喜子の活躍がめざましかった。またショートトラックレース(インドア)の世界的普及に伴い、これを得意とする日本は、83年世界スプリント選手権で総合優勝した黒岩彰をはじめ多数の国際級選手を輩出しつつある。

〔競技種目と競技方法〕 競技場は1周400mのダブルトラックを標準型とし、このほか1周384.18mのシングルトラック(内側半径25m)と1周111.12mの標準ショートトラックがある。ダブルトラックを使用するオリンピック、世界選手権、さらに日本選手権などの公式競技種目は、男子500m、1000m(オリンピックのみ)、1500m、5000m、1万m、女子は500m、1000m、1500m、3000mである。ただし、世界(日本)スプリント・スピードスケート選手権種目は男女とも500m、1000m(この2種目を2日間繰り返して行う)で、ショ

ートトラックを使用する世界選手権種目は、男女とも500m, 1000m, 1500m, 3000mである。

スピードスケート競技は古くから行われていたので、国際スケート連盟が創立されたころにはすでに競技規則などの原型はできあがっていた。約100年も前からダブルトラックを採用したのも研究の成果で、スピードスケートは両足を左右交互に滑るためコースの幅を広くする必要があり、そのためにはコースを二重にして走者に十分のレースを行わせる、合理的な方法である。コースは標準5m幅とし、バックストレッチの中央で内側発進の走者と外側発進の走者が入れかわって1周すると400mになるようにつくられる。バックストレッチの中央には境界線をひかない。境界線は転倒しても危険のないように雪を盛り上げてつくるので、スノーラインと呼ぶ。雪のないときは木片を固定しないで10m間隔に配列する。現在は冷凍機の発達によってすべて人造の氷と雪が用いられ、札幌のオリンピック競技場をはじめ、いずれも400mの人工リンクである。

【競技方法】 2人の走者のダブルトラックレースは抽選で内側、外側のコースを決め、ピストルの合図で同時にスタートをし、バックストレッチでコースの入れかえをしてゴールに入る。セパレートコースによるタイムレースとも呼ばれる。両走者が同時にコースに入って衝突の危険のあるときは外側からの走者が優先してまず内側コースに入り、内側からの走者はこれに次いで外側コースに向かう。もし両走者が衝突または接触したときは内側からの走者が責任をとる。これは外側発進の走者の方が内側走者よりタイムにおいて優れているためである。世界選手権、日本選手権では、男女とも4種目を完走し、その結果を総合して優勝者を決める。順位の決定方法は、500mの所要タイムを単位として(40秒ならば40点)、1500mは $\frac{1}{3}$ 、5000mは $\frac{1}{6}$ 、1万mは $\frac{1}{10}$ を合計し、最も得点の少ない競技者から順位を決定する。ただしオリンピックでは各種目ごとに優勝者を決めている。一方、シングルコースのレースをオープンコースのレースともいい、数名以上の競技者を同時スタートさせる。国民体育大会など参加者の多い競技会で採用されている。このレースでは、責任先頭制と呼ぶ規約があり、レース中どの走者も定められた回数、定められた個所を先頭で通過する責任をもつ。もしこの回数の負荷責任を果たしていない選手は、1番でゴールインしても、負荷責任を完了している2番に1位を譲ることになる。これは走者同士のかけひきを正すための方法である。

【フィギュアスケート figure skating】 近代フィギュアスケートをつくり上げた人にヘインズ Jackson Hains (1840-79) がいる。踊りと音楽とスケートを結びつけ、いわゆるフリースケーティングの祖となった人である。アメリカでダンスを修業、ウィーンに渡り、ここを本拠にし

て全ヨーロッパに音楽とダンスとスケートのフリースケーティングを普及させた。国際スケート連盟結成以後のフィギュア界に名をとどめているのはノルウェーの天才少女 S. ヘニーである。10歳でノルウェー選手権に優勝、オリンピックの第2〜4回大会に3回連続優勝、その後はプロとしてショースケーターに転じ、すばらしい演技を見せた。日本のフィギュアスケートは新渡戸稲造がアメリカから持ち帰ったスケートで札幌農学校の学生たちが習い始めた外側へ曲がる技法が第一歩といえよう。ついで1915年ころ河久保子朗訳出による指導書《スケートイング》によってフィギュアスケートが形づくられていった。しかし著しい発展をみたのは第2次大戦後である。歴代の国際級選手には、戦前にオリンピック代表として活躍した老松一吉、帯谷竜一、稲田悦子、57年から日本選手権10連勝の佐藤信夫、64年のインスブルック冬季オリンピック大会5位の福原美和、77年の世界選手権で日本人として初めて3位となった佐野稔、79年の世界選手権3位、80年のレーク・ブラッド冬季オリンピック大会6位の渡部絵美らがいる。

【競技種目と競技方法】 競技場は60m×30mの広さを標準としている。フィギュアスケートは、定められた図形を描くコンパルソリーフィギュア compulsory figures (スクール・フィギュアともいう) とその図形を基礎にして滑るフリースケーティング free skating に大別される。また個人で滑るシングルスケートと、男女が1組になって滑るペアスケートと、男女1組のアイスダンスの三つの種目がある。コンパルソリーフィギュアはフィギュアスケートの基本となるもので、4種類の滑り方から構成されている。アウトカーブ(前進外曲滑走)、インカーブ(前進内曲滑走)、バックのアウトカーブ(後進外曲滑走)、バックのインカーブ(後進内曲滑走)の四つで、いずれも左右の片足ずつ別々に滑る。さらにこの4種類を基本として17種の基本図形が考案され、これを前後左右で滑り69種の図形をつくりあげている。競技ではこの17種の基本図形のなかからいくつかの図形が選ばれて課題となる。このコンパルソリーフィギュアに対して、フリースケーティングは基本図形を適宜にとり入れて自由に滑走する。この場合、音楽のリズムに合うこと、優雅であること、などを心がける。ペアスケート、アイスダンスでは、ともに2人の動作が調和することが必要である。さらに、シングル、ペアそれぞれに、ショートプログラムという種目がある。これはあらかじめ定められた7種の種目(ジャンプ、スピン、ステップなど)を選手が自由に選んだ音楽に合わせて2分間滑走する。フリースケーティングの課題競技である。なお、アイスダンスにはオリジナルセットパターンダンスがある。

【競技と採点の方法】 競技はすべて国際スケート連盟の規定に準じて行われる。競技の成績はシングル、ペア、アイスダ

【スケート】図1 スピードスケート競技の400m標準ダブルトラック

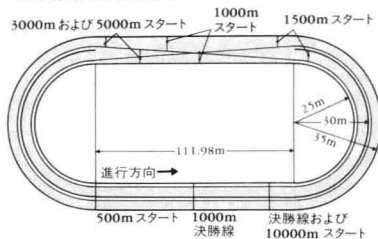


図2 スケート靴3種

上 フィギュア用、
中 アイスホッケー用、
下 スピードスケート用。

アイスホッケー用は自由な回転と急速なスピード変化を必要とするので、靴はじょうぶで軽く、ブレードの前後の部分がついている。



ンスとともにそれぞれの種目の成績を合計して決定し、個々には表さない。コンパルソリーは課題として提示された図形を左右の足で3回ずつ滑走する。フリーは男子4分30秒、女子4分間を滑走する。これらの競技のポイントとは、コンパルソリーでは、3回ずつ滑った線(トレース)がうまく重なっているかどうか、フリーではバランスのとれぐあい、音楽が滑走に適しているかどうか、リズムカルであるか、全体のスピード感、優美さ、さらに独創性などで、これらが競技で採点の対象となる。成績を表す基準はいずれの種目もまずテクニカルメリット(技術的印象)とアーティスティックインプレッション(芸術的印象)の二つを基準として、0点から6点まで、0.1点きざみで採点する。審判団は最少5名、最大9名の奇数のジャッジと1名のレフェリー、1名のアシスタントレフェリーから構成される。

【用具】 スピード、フィギュア、アイスホッケーの3種類の氷上滑走用具は、それぞれ滑走しやすくなるようつくってある。スピードスケート用はよりよく速く滑るよう、ブレードが革靴より前後に長くつくられている。しかもがんにように軽いことを条件とし、鋼鉄(ハガネ)のブレードは軽金属の円筒で包んで仕上げてある。フィギュアスケート用は回転を自在にするため短く、ブレードの氷との接触面は前後に弓形にそっている。

両角 政人

スケトウダラ 鮭 Alaska pollack: wall-eye pollock: *Theragra chalcogramma* スケソウ(スケソウダラ)、メンタイ(朝鮮語の明太の日本語化したもの)、ミンタイともいう。タラ目タラ科の海産魚。本州では日本海側は山口県以北、太平洋側は宮城県以北に分布。オホーツク海、ベーリン

グ海に多く、北アメリカ西海岸に及ぶ。朝鮮半島の日本海側にも多い。近縁のマダラに比べ体は細く、やや延長している。下あごは上あごより突出し、下あごのひげはごく短い。体の背面から側面にかけて濃褐色不定形の斑紋があり、腹面は白い。背びれは3基、しりびれは2基。全長約50cmに達し、まれに90cm程度に及ぶものもある。水深50～500mの中層ないし底層を遊泳し、ときに表層まで浮上する。稚魚期にはケイ藻類、微小な動物プランクトンを捕食し、成長すると橈脚類(コペポダ)、オキアミ、小魚などをおもな餌料とする。害敵としてはオットセイ、マダラ、クジラ類などがある。高齢魚になると共食いも少なくない。

産卵期は12月から4月にわたるが、北洋ではさらに遅れる。卵は分離浮性卵で、直径およそ1.5mm。淡橙色を帯び、卵黄内に数個の油球をもつ。産卵数は親魚の体の大きさによって異なるが20万～150万粒。稚魚は岸近くの表層に集まって成育し、半年ほどたつとしだいに深みに移行する。成熟する年齢は雄が3～5歳、雌は4～6歳で、寿命は12～13年。漁獲は機船底引網、トロールによるものが多いが、刺網、はえなわによる場合もある。日本では1977年まで本種が魚種別漁獲量の最高位を占め、とくに1972、73年には年間漁獲量が300万tを超えたが、乱獲のためその後しだいに減少し、さらに北洋漁場その他での国際的漁業規制の強化がいっそうその減少傾向を助長するに至った。しゅんは1～2月で、鮮度の高いものは刺身にもでき、煮魚、かす漬などとして食膳にも供されるが、大部分は冷凍すり身として、かまぼこ、その他の練製品原料とされる。また、魚粉として家畜、養殖魚の飼料製造の原料とされる。卵巣の塩蔵品はくたらこ、またはく紅葉子(めづ)の名で賞味される。

スケートボード skateboard

長さ70～75cmほどの細長い板の前後にウィール(車)をつけ、その上に乗ってゆるい斜面や平地を走るスポーツ。20世紀の初期にアメリカのカリフォルニアではじめられたという。波乗り(サーフィン)にヒントを得て、短いサーフボードにローラースケートのウィールを取りつけ、サーフィンの楽しさを陸上で味わおうとしたもの。バランスの取り方や重心の移動によってボードを操作する点は、サーフィンの原理とも通じる。1960年代の半ばにウレタン製のウィールが作られ、坂を上り下りできるようになり、アメリカ西海岸からヨーロッパ、日本へと普及した。さらに75年ごろには、従来のボールベアリングに代わってシールドベアリングが使用され、騒音がなくなり、手入れも容易になった。それとともにサーフィンのまねではない独自のテクニックが開発され、新しい都市のスポーツとして多くの若者たちに受け入れられた。発祥

地アメリカでは愛好者は1000万人ともいう。

園田 碩哉

スケネクタディ Schenectady

アメリカ合衆国ニューヨーク州東部の都市。人口6万7972(1980)。モホーク川とバージュ運河に面している。1886年に建設されたゼネラル・エレクトリック会社の工場があり、電気機械、電子機器、化学が主要工業である。1661年に定住が行われ、90年にはフランス人とインディアンとの攻撃を受けて全滅したが、その後、モホーク川を西へ行く交易商人や植民者の宿場として発達した。1820年代のエリー運河の完成と30年代の鉄道の開通によってますます栄えた。48年に始まった機関車の製造が長い間、町の重要な産業であった。

菅野 峰明

すけひとしんのう 典仁親王

1733-94(享保18-寛政6)

閑院宮直仁親王の王子で、東山天皇の皇孫にあたる。同宮第2代を継承。1743年(寛保3)親王宣下、翌年元服して大宰帥に任ぜられ、帥宮とよばれた。妃は中御門天皇の皇女成子内親王。光格天皇の実父にあたり、天皇は後高倉院(守貞親王)、後崇光院(貞成親王)の先例によって父親王を太上天皇として尊崇しようとし、このため89年(寛政1)以来朝幕間で交渉が行われた。しかし幕府では老中松平定信が名分論をとって終始賛成しなかったため、この議は遂に成らず、93年このことに関与した議奏中山愛親、武家伝奏正親町公明が幕府から処罰されて終結をみた。いわゆる「尊号一件」であるが、のち1884年に至り、親王は明治天皇より太上天皇の尊号と慶光(すけ)天皇の諡号(すけ)を追贈された。

武部 敏夫

すけひとしんのう 輔仁親王

1073-1119(延久5-元永2)

後三条天皇の第3皇子。母は源基子。父天皇は摂関家と外戚関係なく皇位に立ち、わずか4年で皇位を第1皇子貞仁親王(白河天皇)に譲ったが、引き続き院中に政務をみる先例を開き、摂関家の勢力を抑えようとした。このため天皇は、さらに皇位継承の順序を定め、第2皇子実仁親王を白河天皇の皇太弟に立て、ついで第3皇子輔仁親王の立太子、即位を目ざした。しかしまもなく後三条天皇が没し、ついで皇太弟実仁親王が没するや、白河天皇は皇統を直系の子孫に伝えようとし、弟の輔仁親王を退けて、1086年(応徳3)11月皇子善仁親王(堀河天皇)を皇太子と定め、即日譲位して、ついに輔仁親王は皇位への道を断たれた。その後1113年(永久1)10月源俊房の子醍醐寺僧仁寛が親王のために鳥羽天皇を害しようとした事件で閉門蟄居した。親王は学才にすぐれ、詩歌をよくし、笙にも巧みで、当代有数の文化人として風雅の道にその名を残し、47歳で没したとき、《中右記》の記者藤原宗忠をして、「風月の遊び、已に天下に減ぶ」と嘆息させたほどである。

米田 雄介

スケスゴート scapegoat

〈贖罪のヤギ〉などと訳される。古代ユダヤには白いヤギに人間の罪や苦難を負負

わせて荒野に放す習慣(『レビ記』16章)があったが、ここから転じて他のものの責任の身代りとして、社会から迫害、圧迫される個人や社会層を指す。ナチズムにおけるユダヤ人や、スターリン主義下のトロツキスト、クラーク、日本では関東大震災における朝鮮人等が代表例である。これらの場合は、大きな政治的・社会的変動のなかで従来の社会制度がうまく機能していないため、人々が不安や挫折感を有している状況において、支配層が人々の不満や憎悪のはけ口を、他の、本来は無関係な対象に投射し、攻撃するように操作する。大衆の側では、本来の不安定の原因や責任を追及することよりも、社会的劣者や特定の社会層に攻撃の対象を見いだすことで、嗜虐的欲求が満たされ、不安や不満もいちおう解消される。このように偏見を利用して、大衆を操作するためのメカニズムがスケープゴートである。

下斗米 伸夫

スケール scale

高温の大気中で金属物体の表面に生成する厚い金属酸化物の層をいう。普通の金属は、金属光沢をもっているも数百nm程度の薄い酸化皮膜を有しているが、スケールは薄くて μm 、厚いものではmmのオーダーの厚さである。

金属を熱間加工したり、焼きなまし、焼入れの際に高温に熱すると空気中の酸素が物体表面で金属原子と結合して酸化物をつくるが、この生成速度は温度の上昇に対して指数関数的に増大する。また分厚いスケールは金属の下地からはがれやすく、金属を熱する炉や熱間加工機械の中に落下する。しかし、製品にする際にはごく薄い μm オーダーの酸化物皮膜にとどめるため、スケール落し(デスケールリングという)をして、酸化皮膜を調整する操作が必要になる。これには機械的な方法や高圧水の噴射による方法などが適用される。多くの場合、スケールは回収され再び資源として活用される。鉄のスケールの主成分は磁性材料として使用されている「フェライト」とほぼ同じである。なおボイラーなどの内面に付着する垢石もスケールという。

▶▶硬水 木原 諱二

スケールアップ scale up

小さい規模での経験をもとに、より大きな規模での装置の設計、製作を行うことをいう。化学工業でよく使われる言葉で、何倍のスケールアップが可能かは装置によって違う。複雑な反応装置では数倍程度しかできないが、装置内部の現象について化学工学的解析が進んでおり、シミュレーションが可能な場合には何百倍、何千倍のスケールアップも可能である。

西村 肇

スケルツォ scherzo [ʃɜːrˈtso]

〈冗談〉〈諧謔〉を意味し、諧謔曲とも呼ばれる。①交響曲や弦楽四重奏曲の第3楽章(ときには第2楽章)に用いられ、急速なテンポ、3拍子、激しいリズム、気分の変化などを特色とする。一般に3部分形式で書かれ、中間部はトリオである。この楽章の一形態としてのスケルツ